

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月27日までの集計によれば、利用客数が前年から約1万1千人の増加で14.3%の伸びとなっている。こうした前年比プラスの動きが、今月を含めてすでに1年以上続いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・春になり観光客の来訪とともに輸送量が増加している。
	やや良く なっている	スーパー（店長）	それ以外	・3月は消費税増税前の駆け込み需要により売上が大きく増加し、その反動で4月は売上が減少しているため、現状では景気の判断は難しい状況にある。
旅行代理店（従業員）		単価の動き	・平日は相変わらず閑散とした日もあるが、土日は海外旅行、国内旅行の申込みが増えている。金額だけではなく、内容重視の相談も多く、結果的に単価の高い商品も売れている。	
通信会社（企画担当）		お客様の様子	・競合他社のサービスに乗換える客が減るとともに、当社のサービスに対して好感を示す客が増えている。販売状況も徐々に好転している。	
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税が話題となっているが、飲食店の多い当商店街では、客が消費税増税をシビアに捉えて店舗を利用することは少ない。また、店側も現状は価格を上げずに企業努力で対応している。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税が上がったが、客の動きは以前と大して変わらない。世間では安売りをかけて、消費の落ち込みについて何とか対抗しようとしているが、なかなか思うようにいかないのが現状である。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税が駆け込み需要を誘発していたことで、予想していたように4月の前半は最悪な状況であった。ただ、消費税が5%上がった時よりはひどくない。飲食店では、4月の歓送迎会シーズンが進むにつれて客が増えるなど、週末は比較的混雑した。一方、物販については、平常の状態に戻るまで3か月くらい掛かる。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月前半は消費税増税の影響もあり、非常に売上が悪く、10日ごろまでは前年比80%程度で推移していた。ただ、その後の回復が意外と早く、後半になってから盛り返してきている。月全体では普段の月とあまり変わらない売上となっている。	
	スーパー（役員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動により、4月前半の売上は苦戦したが、20日以降はほぼ通常の状態に戻ってきている。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・現時点では景気を読みづらい段階にあるが、ゴールデンウィークが近づいた辺りから来客数が回復傾向にあり、売上も前年を上回る日がみられ始めている。	
	コンビニ（オーナー）	販売量の動き	・中国人観光客の増加が目立っており、そのことが売上にもプラスとなっている。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・4月前半は消費税増税の影響で商店街に買物客の来店が少なかった。当初、着物の販売は増税とは関係ないとみていたが、特売セールを行っても客の来店が少なく、売上も減少していた。ただ、20日過ぎに開催した奄美大島紬の催事は来客数も売上も良かった。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・消費税増税前は、客の様子として新調に対する需要が高く、駆け込み需要も相まって前年を上回る売上となった。その反面、4月に入ってから、売上が前年より大幅に下回るなど、消費税増税に対する客の節約意識の高まりから好景気とは言えない状況にある。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動により、販売量が前年比80%程度となった。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・消費税増税の前後で差がみられる。増税後は当店が入居している商業施設自体の集客率も下がっているため、当店の来客数も減っている。
		高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・4月1日から4月20日までの期間で創業記念イベントを行ったこともあり、4月の売上は前年を15%上回った。心配していた消費税増税の反動は今のところみられない。一方、客単価は5%程度低下しているが、イベント企画時に想定した範囲内である。
		観光型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・観光目的やビジネス利用の個人予約が低調である。近隣アジアからの観光客や国内の団体旅行も横ばい傾向である。
		タクシー運転手	販売量の動き	・2～3月においては、前年と比べて若干の上積みという状況であったが、これはあくまでも消費税増税による駆け込み需要によるものであり、4月に入ってから、消費税増税の影響もあり、若干の落ち込みが現れている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・雪が解けて暖かくなってきたため、利用客が減ってきた。3か月前と比較すると、約10%も落ち込んでいる。しかし、前年と比較すると、若干ではあるが売上が増えている。このため、景況感としては2～3か月前と変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・2月はまずまずの来客数があったが、3～4月は前年比で減少傾向にあり、全体ではあまり変化がみられない。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・消費税増税の影響で月初めはかなり低調だったが、中旬から急に忙しくなり、月全体では前年並みの売上になりそうである。商品販売は3月の売上が前年比150%だったため、今月は低調だが、2か月分を平均すると前年並みの売上となる動きを示している。結果的に、消費税の影響はなかったとみている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数に大きな変化はないが、客単価がやや低下している。
	商店街(代表者)	単価の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動で、来客数が減少しており、客単価も低下している。特に高額商材はほとんど売れていないのが現状である。6月のボーナス商戦までに回復するのかも厳しい状況である。	
	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税後は、やはり客の買い方がかなり慎重になっており、商品を買わずに見ている客も多い。また、安い商品のなかから探そうという客の様子が見て取れる。	
	商店街(代表者)	来客数の動き	・消費税増税の影響とみられるが、昼間においては4月20日ごろまで来街者が減少していた。特に火曜日、水曜日は、地域の買物客のみならず、学生を始めとしたカラオケなどの遊興客も目に見えて減少していた。通常の客入りだったのは、価格に消費税アップを反映しづらい夜型飲食店のみであった。	
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・来客数は前年比97%であったが、売上は前年比85%であった。3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動もあるが、複数購入が減り、単品購入の傾向が強くなっている。また、販売量が前年比97%であることから、客単価の抑え込みが強く感じられる。	
	スーパー(店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による反動減を考慮しても、想定以上に低迷している。	
	スーパー(店長)	来客数の動き	・買上客数は、消費税増税後の4月前半から徐々に回復傾向にあるが、全体としてはやや悪くなっている。	
	スーパー(役員)	来客数の動き	・消費税増税後の回復が遅く、ほぼ毎日が前年の売上を下回っている状況にある。商品単価が前年比103%、客1人当たりの平均買上点数が前年比96%となっており、客単価は前年比99%で推移している。前年を上回る部門も出てきているが、買上客数が前年を大きく下回っている状況であり、企画に対しても反応してもらえない。	
衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・消費税増税後の客足が鈍くなっている。		
家電量販店(店員)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、来客数、売上とも前年を下回った。		
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・全体的な受注量が前年比60%程度にとどまっている。特に個人客の購入は半分以下となっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税後の反動が予想よりも大きく、新車、中古車、車検入庫などが大きく減少している。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のあった3月の反動でやや悪くなっている。この傾向はボーナス時期まで続くことになる。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は、当初予測していた10%ダウンまでは至らなかったが、全体としてはやや悪い状況にある。ランチの売上が減少しているが、消費税増税の影響に加えて、他店との値引き合戦が響いている。市内の飲食店では、割引本を持ち込むと大幅値引きするシステムが流行しているが、当店を含めて参加していない店では、今後参加するかどうかで迷っている。一方、夕食の売上は若干の減少となっている。夜の一般客は減ったが、有名企業の歓送迎会での利用が目立った。市内の和食店などでは、週末に建設関連各社の利用が増えたとのことである。
		観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・消費税増税後の予約件数が伸び悩んでいる。海外客は堅調に推移しているが、国内客の動きが非常に鈍い。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税に加えて、管内の行政機関や企業の人事異動などで、4月前半のビジネス客の動きが停滞している。中旬以降は回復傾向にあるが、月全体としては前年割れとなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・4月は暖かい日が多く、雨の日が少なかったため、タクシーの利用が前年より減っている。タクシー1台当たりの売上も前年比マイナスであった。ただ、消費税増税にともなう乗り控えは、あまりみられない。
		パチンコ店（役員）	単価の動き	・消費税増税の影響で客足が鈍っている。
		住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・消費税率が8%になったが、分譲マンションの購入を検討している客の様子はそれほど変化していない。建築単価の上昇などで、すでに分譲マンションの価格が前年よりも上昇しているため、3%の増税分が分譲マンション購入の検討に悪影響を及ぼしていないようである。
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月1日から消費税が増税されたことで、客の様子が一変した。春物を含めて衣料品の動きが非常に厳しい状況にある。来客数は前年比90%台で推移しているが、売上が大きく減少しており、前年比80%台前半になりそうである。特に1階の化粧品関連が厳しいほか、催事場の物産関連も前年比70~80%台と非常に厳しい状況にある。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要はさほど大きくなかったにもかかわらず、4月の売上は前年比20%減で推移しており、当初予想していた10%減よりも落ち込み幅が大きくなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税増税後ということで、来客数、買上客数、買上率のすべてにおいて、前月の消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。また、海外からの旅行者も減少しており、ゴールデンウィークに影響が出ることが懸念される。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・消費税増税による買い控えが食品以外で顕著であり、来客数が大幅に落ち込んでいる。一方で、買上率は前年を大きく上回る高水準となっており、来店した顧客が確実に目的買いをしている傾向がみられる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で3月は一時的に売上が増加したが、4月の反動は3月の増加分を大きく上回る結果となっている。スーパーや食品以外での前倒し消費の影響が大きくなっている。
		家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が大きく、家電製品全般で大きく落ち込んでいる。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のしわ寄せがきている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・前月のにわか景気とは一転して、予想どおり客が商品を買わない、買う気がないといった状況が続いている。同じような状況がしばらく続くことになれば厳しくなる。	
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が終わり、高額商材を中心に消費が相当冷え込んでいる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連 (北海道)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	その他サービス 業〔ソフトウェア開発〕(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・前年度の積み残しによるものが大半であるが、やや 良い状況にある。
	変わらない	建設業(従業 員)	取引先の様子	・建設業では取引先による格差が生じている。本州と 取引する鉄鋼加工業では年内フル稼働が見込まれてい るが、道内との取引に限定した加工業ではそれほどの 状況とはなっていない。
			受注量や販売量 の動き	・公共工事、民間工事とも受注状況はまずまずであ る。また、民間建築物の引き合いも、引き続きみら れている。
		輸送業(営業担 当)	取引先の様子	・段ボール生産工場の3月の生産が消費税増税対策で 増産となったため、4月は反動が出ると思っていた が、実際は落ち込みもなく順調な生産となった。雑貨 のトレーラ輸送についても、4月は全国的に非常に順 調に推移している。
		輸送業(支店 長)	受注量や販売量 の動き	・4月からの消費税増税による反動が出るのはまだ先 とみているが、前期からの計画が変更となるわけでも ないため、年度予測に対する悲観的な意見はまずみら れない。
		通信業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比較しても、受注量、販売量ともに大き な変化がなく、景況感としてはやや良い状況が持続し ている。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税による動向を観察していたが、現在のと ころ、大きな変化もなく推移している。今後も、建 設、不動産取引とも関連業界に大きな変化はないとみ ている。
		司法書士	取引先の様子	・例年であれば、建物の新築やこれにともなう土地の 売買が増加する時期であるが、全くの足踏み状態であ り、売買の動きがみられない。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税前の高額商材の先買いの影響は当然ある が、一般的な商品の買い控えなどは感じられないた め、気分的には楽観視できるのではないかと期待して いる。
		やや悪く なっている	食料品製造業 (経営者)	受注価格や販売 価格の動き
	家具製造業(経 営者)		受注量や販売量 の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が終わったことで、4 月の受注が著しく減少している。
	金融業(企画担 当)		それ以外	・消費税増税により住宅着工が落ち込んでいる。個人 消費も百貨店や乗用車の売上に反動減がみられる。建 設技能者などの人手不足感も強く、工事の遅れが出て いる。
	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (役員)		受注量や販売量 の動き	・売上としては好調だったが、消費税増税前の駆け込 み需要の反動減が影響し、販売量が減少している。ま た、一部の溶接材料が品薄で入手困難であったこと も、販売量の減少につながっている。
	悪く なっている	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	良く なっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人ニーズは、心配された消費税増税の影響を感 じることもなく推移している。先行きの不安はまだあ るにしても、目先の忙しさや人手不足を解消しようと する動きに変化はみられず、むしろもう一段強くな った感さえがある。人材不足から派遣会社の求人が増 えており、小売、飲食店などの個人消費系の業界では 人材確保や維持に苦慮している。
	やや良く なっている	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から9.5%増加し、50か月連続 で前年を上回った。月間有効求人数も前年から12.6% 増加し、50か月連続で前年を上回った。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・製造業、小売業など、景気に比較的左右されやす い業種についても、求人数の伸びが続いている。
学校〔大学〕 (就職担当)	採用者数の動き	・企業側の採用活動が非常に活発である。内定出し も前年より時期が早いうえ、件数も増えている。各企 業の採用予定人数も概ね増加している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・パートなどの求人が増加傾向にあり、派遣のニーズも増加している。人材紹介においても、建設、管理部門、ITなどの求人が拡大しているが、企業側の求めるスキルと求職者側のスキルにギャップがあり、マッチングが難しくなっている。事務処理であれば、パートや派遣で充足できるが、正社員の採用がスムーズにいかねば、企業の業績拡大につながらないという懸念がある。建設業などが顕著な例であるが、サービス業においても営業マンの採用遅れは、売上に影響を及ぼしかねない。
		人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・有期雇用かつ低賃金の求人が多い。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求職者数の動き	・求人件数と比較して、全業種、全職種で求職者の減少とクオリティの低下が顕在化してきている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人数に関しては、各種景気動向の発表と同じように、年初から底堅く推移しており、経済状況が一段上がっている。
		職業安定所(職 員)	雇用形態の様子	・3月の新規求人数は前年比1.8%の減少となった。新規求職者数は前年比3.0%の増加となった。月間有効求人倍率は0.87倍となり、前年の0.77倍を0.10ポイント上回った。ただし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は42.9%と相変わらず高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪く なっている		新聞社[求人 広告](担当者)	求人数の動き	・求人広告の売上が、約2年半ぶりに前年を下回った。
		職業安定所(職 員)	雇用形態の様子	・新規求人に占めるパート求人の割合に増加傾向がみられる。また、新規求職者数の減少が進むなかで、パート就労を希望する求職者の減少幅がフルタイムの減少幅と比べて小さいなど、雇用形態の変化がみられる。
悪く なっている		—	—	—

2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(-: 回答が存在しない、○: 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	スーパー(経営 者)	お客様の様子	・想定より消費税増税前の駆け込み需要が大きかったため、反動も大きい。
		コンビニ(店 長)	来客数の動き	・春になり来客数がかかなり増加している。来客数の前年比も競合店の閉店に伴い良くなっている。冬に比べて経費もかからないので利益的には大きい。
		家電量販店(従 業員)	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、来客数及び売上は前年より少ないが、掃除機やパソコンの高付加価値モデルがよく売れている。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・今月は新規契約が少ないが、前月の消費税増税前の契約分を今月に納品しているため売上は保たれている。
		その他専門店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・今年は雪解けが早かったため、客の動きも例年より早い。消費税増税の影響を懸念したが、飲食店などへ足を運ぶ消費者も増加傾向にあり、それに伴い全体的な販売量も増えている。特に今月はビール類の販売量が増加している。ただ、状況がいい店と悪い店の差が更にはっきりしている傾向がみられる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前より予約客がかかなり増えている。例年ならゴールデンウィークの後はあまり予約はないのだが、今年は予約がぼちぼち出てきているし、ゴールデンウィーク前の1週間も来客数がかかなり多くなっている。
		観光型旅館(ス タッフ)	販売量の動き	・消費税増税の影響で販売量の減少が予想されたが、販売動向としては例年並みとなっている。単価を落として販売量をある程度確保できたので、収益的にはやや厳しいが何とかかなりそうである。
		観光名所(職 員)	来客数の動き	・桜の開花がゴールデンウィークにかかったため、今月は休みの並びが良くなかったがそれなりの人出がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の影響で3月の売上は25%増となったが、今月は15%の減少が生じている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・暖かくなり人出がある割に単価が低い。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年になってから、売上が前年を上回った状態が続いている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・売上は消費税増税前の駆け込み需要の反動で前年比75%ほどだが、客の買物の仕方を見ているとそれほど悪いわけではない。3か月前も良かったが、現在も良い傾向にあることは変わっていない。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税前に駆け込み需要が多かったアイテムは、前年を下回る予測どおりの動きである。しかし、増税前に買いそびれてしまったという客の動きが売上に結び付いていることが多い。それぞれのライフスタイルに合わせて買物を楽しむ様子は、思ったより増税を意識させない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・4月の既存店推移は、前半が消費税増税の反動で前年比2けた減から始まったが、食品を中心に中旬以降前年推移に近づいている。売上月累計ではまだ前年まで至らなかったが、推移的には戻している。平均1品単価は、前年比推移が前々月まで同様で、買上点数が減少した分売上が前年に至っていない。消費税増税の影響を差し引くと傾向はほぼ同じである。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・販売量が消費税増税前の水準に戻りつつある。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・消費税率が3%上がった分、単価を下げた買物をしている様子が見受けられる。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がみられたが、次第に状況も改善し、前年実績程度まで水準が回復している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、今月の売上は減少している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・2、3月は来客があったが、今月は1月同様に来客が全く無い。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で商品購買力が落ちている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・土日の来客数がかなり減っている。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要による車検があったため、今月の入庫数が少ないようである。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	来客数の動き	・新規客の動きがない。いまだ前月までの受注を処理している状態であり、売上に変化がなく厳しい。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の反動が大きい。客単価は上がっているが、来客数が大きく落ち込んでいる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が少なからずあったので反動を心配していたが、今月の売上はそれほど落ち込んでいない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が3月末にあったため、ガソリンの販売量は前半は減少したものの、半ば以降は平年並みに戻ってきている。タイヤなどの高額商材も前月に買った客が多く、例年と比較して販売量は減ってきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が少し減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・イベントについては集客がはかられたが、一般客の来店状況はさほど良かったとはいえない。しかし、消費税増税による落ち込みはあまりなく、状況としてはあまり変化していない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・今月は花見の影響か宴会なども少なく、花見客の流入も無かったため、あまり良い状態ではない。フリー客自体も少ない状態で、何とか、ある程度の来客数で数字を上げている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・3、4月は歓送迎会のシーズンだが、観光関係の歓送会は多々あるものの、一般企業の催しはほぼ無い。かろうじて家族客や小団体の客で埋め合わせをしている。館内の華やかさはほとんど無く、売上も伸びない。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・本来は1～3月は忙しい時期だが、前年の実績を下回った状況が続いており、今月も一進一退が続いている。来客数の減少が続いているのでかなり厳しい状況である。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ホテル部門やレストラン部門は想定していたよりも大きな落ち込みはみられなかったものの、デリカ部門の落ち込みは想定以上となっている。宴会部門はお祝い関係の会合があり、法人関係のマイナスをカバーした形となっている。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・消費税増税に伴い、メニュー内容も増税分の値上げを実施したが、宿泊数、宴会数、レストラン来客数に変化はみられない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に、特に動きは見受けられない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・復興関連業種からは継続的に好況感がうかがえる。しかし、その他の業種は客との商談においても好況感及び設備投資意欲はうかがえない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税後は、顧客のコスト削減要求が多くなっている。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・前年の4月は天候に恵まれずに来客数が少なかったため、今月の来客数の増加が景気によるものか、天候に恵まれてのものなのかの判断が難しい。客単価は消費税増税分以上に上昇しているため若干は良いが、3か月前より良くなったとはいえない。
		遊園地(経営者)	来客数の動き	・4月のゴールデンウィークの休みが飛び石で、前年の3連休に比べ日程が悪かったが、1か月を通して比較的雨が少なく、例年並みを確保している。消費税増税前の駆け込み需要がなかったせいか反動も出ていない。
		その他サービス [自動車整備業](経営者)	単価の動き	・来客数は変わらず多いが、成約率は下がってきている。客1人当たりの販売額は依然として高い水準を維持している。
設計事務所(経営者)	お客様の様子	・状況はほとんど変わっていない。		
やや悪く なっている		商店街(代表者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による好影響の反動は懸念されたとおりである。特に高額商材とは全く関連のない一般生活品扱い店では苦慮しているようである。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要時の各商店の売り込み姿勢に比べ、4月はあきらめに近い弱腰感がうかがわれる。商店街への来街者数も2割程度減少している。消費税増税への過剰反応のようにも見受けられる。
		一般小売店[書籍](経営者)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要は多少あったが、ベストセラー本が無かったこともあり、全国同様厳しくなっている。
		一般小売店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、今月は売上、来客数ともに震災後最も悪い数字になる見込みである。特に来客数の落ち込みが顕著となっている。しかし、消費税増税前に危惧したような極端な悪化は避けられている。
		一般小売店[カメラ](店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、前月よりも販売量、売上ともに激減している。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の影響で、高額商材や化粧品、消費サイクルの長い肌着類に落ち込みがみられる。ただし、そのなかでも新しい商品、ファッション性のある商品、希少性の高いものなど客のニーズにあったものは売上が出ている。しかし、全体的に見ると消費税増税の影響をカバーできていない。
		百貨店(買付担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ていて厳しい状況である。
		百貨店(経営者)	販売量の動き	・消費税増税によるマイナスの影響が、3月の駆け込み需要のプラスの影響を上回り、トータルでマイナスの状況にある。特に、4月第1週の来客数及び販売点数に大きな影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・高額商材や化粧品などを中心に消費税増税前の駆け込み需要の反動があり、来客数は減少している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客にメリハリ消費の傾向がうかがえる。また、買い控えが起きているなど、消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が大きくなっており、買上点数が減少している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・消費税増税後の客単価は予測以上に減少している。ただし、生鮮品を中心に回復傾向がみえ始めている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税に係る買い控えが予想以上に長引いている。食品への影響は短期と捉えていたが、1点単価は前年並みだが買上点数が浮上せず、増税に伴い不必要な物はできるだけ購入しないという意識が強く働いているようである。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数に変化は無いにもかかわらず売上が減少している要因は、客単価と買上点数の減少である。特に客単価は前年比91%と大きく割れている。消費税増税の影響が出て、締めり気味になったとみられる。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税の影響は思ったよりもない。しかし、競合他社の出店が続いており、厳しい経営が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・消費税増税後の客単価の低下が著しい。夕夜間の買上点数が少なくなっており、客の買い控えがうかがえる。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・消費税増税後ということで、たばこを中心に高単価商材が厳しくなってきた。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・3月の駆け込み需要があまり多くみられなかった割に、消費税増税後の反動が大きく、来客数は前年より15%ほど落ちている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・消費税増税前と比較して来客数は増加傾向にあるが、高単価商材の動きが鈍くなってきた。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・4月に入りサービス在庫量は前年並みであるが、新車関係の来場者は激減している。消費税増税前の駆け込み需要の反動で、受注ベースで2割、販売ベースでは3割を超える減少が続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の前後から新車受注が激減している。また、中古車販売やサービス在庫も落ち込み始めている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がもろに影響している。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・来客数が通常の4分の1まで落ち込んでいる。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・消費税増税を境に来客数がめっきり減少し、車販客のみならず修理などの入庫客数も減少している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で3月の販売量は前年比220%であったが、今月に入ってから反動で前年比50%で推移している。商品の値段や経費がじわじわ値上がりしている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・来客数や売上が前年比90%程度で推移している。特にアパレルショップの売上の落ち込みが大きい。また、レストランは消費税増税対策で新規メニュー開発などの対応策をとり、数字が好調であるが、カフェ、ファストフードは売上が減少している。消費税増税の影響はかなり大きいものであることを痛感している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・消費税増税を含めた諸々の値上げの影響で、来客数が減少している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・4月前半は消費税増税の影響もあつてか来客数が伸びなかった。後半になり徐々に回復の傾向がみられる。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・東北最大級のショッピングモールができたが、ショッピングモール自体に人がきてもそれ以外の店には立ち寄らない人がほとんどで、地元の店全体が打撃を受けている。ショッピングモールも、人は集まっているが遊びに来ているだけで、実際に買物している人は少ないようなので、景気回復のカンフル剤の役割を果たすには程遠いようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・一般宴会は以前からの予約、4月であれば2月までの予約で回っているため、消費税増税があってもそれほど大きな動きはみられない。予約状況については一般の宴会は悪くないが、披露宴などの婚礼の部分で伸びがみられない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・4月に入り全部門で来客数、売上ともに前年を下回っており、厳しい数字となっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響もあり、3月は例年よりも売上が良かったが、4月に入り前年比は目標まで届いていない状況である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税により、客は料金が非常に高くなったというイメージを持っているようである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・消費税増税後の乗客数は、特に長距離客数が減少している。ゴールデンウィークにむけて節制しているのではないかと。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の影響で、前月よりも消費が落ち込んでいる。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税後、新規加入の客が減少し、解約する客が大幅に増加している。消費税増税に伴い、利用料金の見直し、節約などによって予想以上の解約申請が続いている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数が減少している。外的要因としては、消費税増税の影響で物価が上昇したことによる消費の落ち込みがあるとみられる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が、前年比、前月比ともに1割前後減少している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・最近になり、パーマやカット料金の問い合わせの電話が多くなっている。行きつけの店より少しでも安い店を探すようになったのではないかと。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	来客数の動き	・受付件数が伸び悩んでいる。
	悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・商店街に空き店舗や閉店が徐々にではあるが増えている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・消費税増税により15日くらいまでの来客数は前年比20%減で大変悪い状況であったが、その後、給料日を境として25日以降は何とか前年比10%減にとどまっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・月初を中心に消費税増税前の駆け込み需要の反動があり、売上が低迷している。特に、化粧品、宝飾時計、ブランド品の落ち込みが大きい。ただし、月後半から天候が安定していることもあり、婦人服、紳士服を中心とした衣料品の春物、初夏物商材に動きがでてきており、反動による落ち込みに歯止めがかかりつつある。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・月初は当社の開店記念セールでにぎわいを見せたが、売れるものは特別提供品やお買い得品ばかりである。消費税増税は関係なく買物をする客もたくさんいる一方で、会話の端々に「8%になったから」という声がかかれた。セールへの関心は通常月よりもかなり反応はよかったものの、消費税増税の影響で売上は前年をクリアしていない。特に後半は来客数も厳しく、ゴールデンウィーク前半のにぎわいは見られない。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で、全体の売上は前年比約2割低下している。衣料品などファッションアイテムは影響が少ないが、消費税増税前の駆け込み需要があった高額商材、化粧品などの影響が大きい。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要があった食料雑貨品などの売上が低迷しており、消費税増税後は来店頻度、買上点数ともに97～98%台まで低迷している。前月と比較してマイナス6～7%と影響は大きい。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・天候が比較的良好のためか、だんだん持ち直してきてはいるが、消費税増税が始まった月なのでかなり落ち込んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税後、来客数が10%以上減少している。また、客単価についても特にたばこの買い控えがあり低下している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税の前後で来客数の増減がない。ゴールデンウィーク目前でも来客数の動きがみえない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・消費税増税後は来客数が減少している。また、来店しても買物につながらない。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動か、増税前に売れた礼服やスーツの売行きが思わしくないほか、40～50代といった年代層も今月は全く動いておらず、その分がぼっかり穴を作った状態で苦戦している。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・消費税増税の影響で、来客数が前年比20%減少している。さらに、クールビズでスーツが売れなくなっている。
		家電量販店 (店長)	販売量の動き	・パソコンに関しては引き続きウィンドウズ8への買換え需要があり、前年を上回っている。冷蔵庫やエアコンの需要は消費税増税の影響で減少しており、特にエアコンは今月になり極端に減っている。ただし、当初予定していたよりは悪くなく、売上は前年比85%ほどとなっている。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の3月に耐久消費財の駆け込み需要があり、その反動で来客数及び販売量が半分以下になっている。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・消費税増税などもあって家計も苦しく、給料も増えていないようである。そのしわ寄せが飲食業にきている。
		観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・来客数、売上共に過去最低の状況である。客が0人の日が5日も発生している。消費税増税前の駆け込み需要で、宿泊レジャーに回るお金が減少し、地域の他の観光施設も軒並み売上が減少している。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・レストランは消費税増税の影響を受けているのか、来客数が前月に比べやや鈍い。一般宴会及び宿泊部門も今月に入ってから全く伸びる気配がなく、年度初めから厳しいスタートが決定的となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・消費税増税後、急激に乗客数が減り、その状態が続いている。
		企業 動向 関連 (東北)	良く なっている やや良く なっている	—
食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き			・引き続き販売が好調で前年を上回っており、計画達成は確実である。
出版・印刷・同関連産業 (経理担当)	受注量や販売量の動き			・消費税増税前の駆け込み需要の余波がまだ残っており、景気は良くなっている。
電気機械器具製造業 (営業担当)	取引先の様子			・円安などの影響で、受注が国内にやや戻ってきている状況がみられる。
電気機械器具製造業 (企画担当)	取引先の様子			・取引先の新製品開発のサイクルが短くなってきている。
建設業 (企画担当)	受注価格や販売価格の動き			・物価上昇と技術者不足などから、価格と施工時期を判断のうえ入札参加案件を選別せざるを得ない状況が継続している。厳しい工事の受注が少ない分、損益回復に寄与している。
金融業 (営業担当)	取引先の様子			・マインドが改善ってきており、少しずつ前向きな資金需要が出てきている。
広告代理店 (経営者)	受注量や販売量の動き			・消費税増税に伴う印刷物などの表示表記変更の仕事があり、非常に忙しかった前月に続き、今月も若干忙しくなっている。
公認会計士	取引先の様子			・3月は消費税増税前の駆け込み重要で小売業関係などは売上が増加している。建設業関係は3か月前とさほど変わらず推移している。
その他企業 [工場施設管理] (従業員)	取引先の様子			・新規顧客を獲得し、取引が少し活発になってきている。
変わらない	農林水産業 (従業者)		それ以外	・消費税増税となったが、果物農家の販売はこれからのので、今のところ景気に変化はない。ただし、農家の人は全般的に消費の手控えをしている。
	農林水産業 (従業者)		取引先の様子	・米の取引業者からの精算金の入金が遅れている。
	食料品製造業 (経営者)		受注量や販売量の動き	・牛タンの人気は相変わらず良い状態が続いている。お土産やレストランも、まずまずの良い結果が出ており、売上も順調である。
	食料品製造業 (経営者)		受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で駅内売店の売上が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・売上が前年を上回っている。		
		土石製品製造販 売（従業員）	受注量や販売量 の動き	・今年度の予算にあった発注はまだない。		
		建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・同業他社では消費税増税後に受注量が減少している 話を聞くが、当社では消費税増税前と同じように受注 量は順調に推移している。		
		建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・年度初めで官公庁からの発注がまだ本格化していな いため、変化はない。発注が年度をまたいでいる案件 もあるが、全体的な数としてはそれほど多くない。		
		輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・消費税増税後の状況に大きな変化はみられない。		
		通信業（営業担 当）	取引先の様子	・取引先の財務状況に特段の変化は無い。		
		金融業（広報担 当）	取引先の様子	・売上高に変化は無い。		
		経営コンサルタ ント	競争相手の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がある。		
		その他企業〔企 画業〕（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・主要得意先であるエネルギー関連企業の予算削減が 継続している。		
		やや悪く なっている		木材木製品製造 業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・住宅部材の販売量が減少に転じている。
				一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・自動車部品については、消費税増税前の駆け込み需 要の反動減の影響が出てきている。それに加えて新興 国経済の陰りによって、輸出環境がやや悪化してく てきている。
通信業（営業担 当）	取引先の様子			・受注量の増加に比例して価格の低廉化を求められて いるため、受注平均単価は低下傾向にある。		
通信業（営業担 当）	取引先の様子			・消費税増税による買い控えがみられる。		
広告業協会（役 員）	それ以外			・消費税増税後も新聞、テレビ、ラジオなどのマスコ ミ媒体の引き合い状態は引き続き変わらないが、折込 広告、交通、屋外広告などは売上が前年比20%前後落 ち込んでいる。		
広告代理店（経 営者）	取引先の様子			・消費税増税の影響で、今月は受注量が前年比20%程 度低下している。		
司法書士	取引先の様子			・工務店などから、消費税増税後の新規注文が減少し ているとの声が多く聞かれる。		
コピーサービ ス業（経営者）	受注量や販売量 の動き			・消費税増税もあり、例年に比べると小額な商品を中 心に動きが少なくなっている。前年比では20%くらい 少なくなっている。		
その他非製造業 〔飲食料品卸売 業〕（経営者）	受注量や販売量 の動き			・消費税増税の影響により、出荷が伸び悩んでいる。 前月の駆け込み需要が思いのほか少なかったにもか かわらず、出荷先での在庫滞留も見られ、注文も減少 している。		
悪く なっている	その他非製造業 〔飲食料品卸売 業〕（経営者）			受注量や販売量 の動き	・前月の消費税増税前の駆け込み需要の反動か、今月 は数字が非常に良くない。	
雇用 関連 (東北)	良く なっている	—	—	—		
	やや良く なっている	アウトソーシ ング企業（社員）	それ以外	・震災復興に関連した仕事が増えている。		
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業に加え、サービス業の求人広告申込も増えて きている。		
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は引き続き前年同月を上回るとともに、 正社員求人の比率も高くなっている。		
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は平成24年10月以来の3,900人台とな っており、これは最近では平成24年10月と平成26年3 月のみである。消費税増税前の駆け込み需要により、製 造業は50%増加。サービス業は65%増加となっており、 この2つの業種の増加が目立っている。		
		職業安定所（職 員）	採用者数の動き	・常用就職の就職者数はわずかずつ増加傾向にある。		
	民間職業紹介機 関（職員）	求人数の動き	・求人数が増加している。前年よりも回復傾向にあ る。			
変わらない	人材派遣会社 （社員）	雇用形態の様子	・年度末需要が例年になく低調で注文が半減し、成約 率も1割台と不調で好材料に乏しい。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 昨年4月の新卒採用の最終選考及び内定出しが大詰りになっているが、ほぼすべての業種で新卒採用の予定人数が前年を上回っている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 求人数は堅調に推移しているが、大きく増えてもいない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・ 新聞求人広告は増えていない。被災地復興関連や、内陸では流通、飲食などで求人需要が高まっているが、求人募集に対して人が集まらない。市中心部でも、従業員が確保できず閉店する飲食店が出てきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求人数は増加しているものの、全国平均には及んでいない。また、正社員以外の求人の割合が高い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 新規求人数は増加しているが、ここ2か月は前年比2けたの増加であったのが、3月は1けたの増加にとどまっている。また、求人数の増加に伴い、在職中の転職者が多くなっており、求職者全体に占める在職求職者の割合は49.5%と高くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 新規求人数は9か月連続で増加しているが、引き続き労働者派遣業の求人によるもので、特に状況は変わっていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 管内の月間有効求人数は前年に比して微減が続いているが、有効求人倍率は0.9～1.0台、新規求人倍率も1.3～1.4台が続いており、特段の変化は見受けられない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・ 消費税増税前の駆け込み需要の反動で、求人数も前年比1割減となっている。ただし、最悪の想定である2割減までにはいかず、業種によっては前年同様の数の求人申込がある。
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ 消費税増税による景気の落ち込みがうかがえる。

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・ 消費税の関係で3月に駆け込みがあった分、4月に入ればかなり落ち込むのではないかと考えていたが、今のところ思ったほどではない。当店は学校指定の用品を扱っているの、どうしても使わなければならない物は買っているという印象である。
		スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・ 4月前半は消費税増税の影響により厳しい状況だったが、その後は販促効果もあり、来客増及び販売量の増幅につながっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ コンビニでは消費税増税に伴い3月にたばこのまとめ買いがあり、経営している4店共にたばこは前年比80～90%となっているが、たばこを除いた売上については、食品中心ということもあり1店を除き103～120%とあまり影響がない。増税後も既存店ベースで前年をクリアしていることから景気は若干上向きである。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・ 2～3月は大雪の影響で落ち込んだが、今月は消費税増税後の割に中古車、新車の受注量がかかなり伸びている。恐らく2～3月に注文しなかった客が今になって注文を入れているのかと思うが、それにしても2～3か月前と比べると今月は販売量が数段伸びている。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・ 3月は消費税増税前の駆け込み需要で想定以上の来店があり、販売量、販売額共に前年比145%の伸びを示したため、増税後の消費に対してはかなりの冷え込みが懸念されたが、4月の第1週の前年比75%から尻上がりに数字が回復し、現在では95%以上となってきている。景気の底堅さを実感している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 消費税増税がどう影響するのか不安の中の1か月ではあったが、客の反応は良い方向にある。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・ シーズンインと同時にインバウンドの客が押し寄せている。日本人観光客は全体の2割程度である。前年同月と比べても好調である。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ 夜の動きもやや良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		タクシー（役員）	お客様の様子	・歓送迎会等で、今まではアルコールを伴わない立席のみの昼の宴会が多かったが、今年は普通の夜の宴会が多数みられた。
		ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・雪によるクローズもあったが、寒暖の差が大きく、朝の来場者で売店でウェアを購入する客が多かった。消費税増税による直接的な予約減も感じられなかった。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今まで空室だった貸し店舗、貸事務所への引き合いが増えてきたような感じがする。特に、飲食店関係の新規出店などが目立ってきている。土地等については、安い物件への引き合いはあるものの、まだ活発な動きはない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・売上は昨年の実績を上回ったので消費税増税の悪影響はなかったと思えるが、売上そのものは相変わらず、低迷状態が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・学校のキャンプ用品を販売しているが、前年比でみると注文がやや多くなっている。消費税が8%になったので大変心配していたが、その割にこの状況なので嬉しい限りである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・予想はしていたが今月は新入学、新入社の時期に消費税増税が重なり、店も客も戸惑っている。大型店、スーパーなどは即時値札を変更しているが、一般の店は変更できないでいる。客は値上げしていると思って足が止まっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前月の駆け込み消費の反動が如実に表れている。前月と当月のトータルで考えると3か月前と比べて大きく変わらない。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・4月の第1週は10%以上の反動減があったが、徐々に回復し、セールの効果もあって月間では前年比4%減でほぼ想定通りになっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・本来であれば春の訪れと共に来客数、販売量が増えるはずだが、やはり4月からの消費税増税の影響があまり上向いていないので、3か月前とあまり変わらない。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込みの反動で、今月の売上は前年比80%を切った結果で着地となりそうである。ただし、金額構成比の高い商品群では単価の落ち込みがなく、前年より単価が上がっているため、反動減が落ち着けば景気は良くなると見込んでいる。
		家電量販店（物流担当）	お客様の様子	・消費税増税後の購買行動も落ち着きを取り戻している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・地方では高齢化が進み、新しい商品、トレンドに対する反応は鈍く、総体的に景気は上昇する要素はない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込みで前月の販売量が好調だったため、今月は反動で受注量、販売量が大きく減少している。
		住関連専門店（仕入担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込みとその反動減の具合はまだ見極めが難しい。価格訴求に対する反応は当然ながら鈍く、不必要な購買はしていない状況である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・消費税増税により、来客数が少なからず減少している。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・家族連れで来店してもオーダー数が少なく、あまりお金を使わない傾向があるので、客単価が良くない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・来店客の状況から景気はやや良くなってきているようにも見受けられるが、客によって温度差が大きく、全体的に景気が良くなっているとまで言い切れない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客が消費税増税に少し慣れてきた感はあるが、増税分の大きさも実感しているようで、動きが抑えられている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きだけでなく、販売量、単価、客や競争相手の様子いずれも当てはまるが、良くなるというイメージは1つも無い。消費税のことはともかく、何か良くなる方法はないものだろうか。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税による生活費の負担増が、直近のレジャー消費額の減少につながっている。しかし、一部業種では給与が上がっているため、一段落したら来客数が増えると期待している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・3か月前との比較という点、消費税増税を越えたが、客の様子としては新年度で団体の研修などの宿泊が多くなっている。ただし、これは年度始めだからであり、昨年もそのような状況はあったので、上がったとか下がったというような状況は現時点では見られない。
		都市型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの予約状況等も、日並びが良くない関係もあるが、前年までと比べて伸びが悪い。個人客の低迷をインバウンド等の団体予約でどうにかカバーしているのが現状である。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・円安に伴う価格上昇による。
		旅行代理店(副支店長)	お客様の様子	・消費税増税で旅行商品の値上げもあって、客が減ると心配していたが、それほど落ち込まず、決して多いわけではないが、ほぼ前年並みの受注となっている。連休は暦の関係もあるのか国内旅行や近くに出かける傾向で、海外旅行は前年より少なくなっている。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・消費税増税の影響による契約数の低下を懸念していたが、3～4月の動きとしては例年通りの進捗である。特に4月の反動減もなく、通信関連の業種においては、消費税増税の影響はあまり出ていない。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・消費税増税と、ゴールデンウィークの日並びが悪いことから、来客数が減少している。
		競輪場(職員)	お客様の様子	・入場者数、1人当たりの購買単価共にそれほど変化が見られない。
		その他サービス [立体駐車場] (従業員)	販売量の動き	・来客数に関しては例年より若干ではあるが上向きに転じている。しかし、単価、販売量等はすべて横ばいの状態が続いているので、変わらない。
		その他サービス [イベント企画] (職員)	お客様の様子	・地方では客の動きは特に変わらない。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・受注量は前年よりは多いが、3か月前と比べると変わらない。
		設計事務所(所長)	お客様の様子	・3か月前と比べると今日はかなり忙しい。消費税増税の影響で競合が増えたため、状況はあまり変わらない。
		設計事務所(所長)	販売量の動き	・3月決算であるが、何とか乗り切ることができたというのが実感である。ずっと悪い状況だと思っていたが、それなりの経済効果があったということだろうか。しかし、依然として厳しい状況にあることに変わりはない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数が前年比85%となったが、消費税増税には関心が薄いようである。町のイベントには多くの人出があった。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・駆け込み需要のない業種であるが、消費税増税後の買い控えが顕著である。客は余分な物を買わない。
		一般小売店[家電] (経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み購入の影響と、太陽光の買取価格改定等で、売上、来客数など、一変して落ち込んでいる。
		一般小売店[青果] (店長)	販売量の動き	・毎回同じような状況だが、客が来ても必要最低限の品物しか買わないし、来客数も減っている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・やはり消費税増税の影響がある。駆け込み需要後の反動減がまだ続いている。
		百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・消費税増税前に売れた化粧品をはじめとする消耗品関連の売上ダウンが顕著である。各商品とも徐々に持ち直しつつあるが、消費税増税の影響は大きい。
		百貨店(店長)	お客様の様子	・来客数、客単価共に悪くなっている。少数であるが、高品質、高単価商材を購入する客がいる。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・予想どおりであるが、消費税増税の駆け込み需要後ということもあり、来客数が非常に減っている。さまざまなセールを打っているが、いつもより効果が薄い。売上も前年比80%ぐらいである。
		スーパー(統括)	販売量の動き	・月初は前年同期比で20%ほどダウンしたものの、15日過ぎから食品はほぼ前年並みで累計98%台まで戻している。衣料品は93%前後と厳しい状況が続いている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・車が反対車線から入れなくなったので、来客数が激減している。酒、たばこ、雑誌が特に悪い。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・消費税増税で客の買上点数が減り、客単価が下がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・今月は消費税増税により若干売上が落ちると思っていたが、想定以上に落ち込みが激しく、厳しい状況である。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・消費税増税による駆け込み需要の反動減が予想どおり表れている。車検等の入庫は定期的な要素があるが、4月中の車検でも増税前の3月中に入庫する客が多かったため、今月は厳しい状況である。また、当県では企業の給料増という話は聞かれず、むしろ工場の閉鎖や縮小といった話題が出てきている。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響だと思うが、自動車に関しては乗れるだけ乗って、どうしても使えなくなった時点で購入を考えるとという客が増えてきている。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・消費税増税となり、やはり販売の動きが低下しており、来客数も減少している。
		高級レストラン(店長)	来客数の動き	・消費税増税の影響で、ランチタイムのサラリーマンやOL客が激減している。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・消費税増税の影響はそれほどではないと思うが、来客数が戻らない。増税に伴って一部商品を値上げしているが、値上げしていない物と売行きにそう違いはないように思うし、客も値上げについては理解してくれているようである。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・4月に入り消費税が上がったところで、やはり飲食関係は今までと変わって来客数が少なくなっている。単価についても、一般消費者である客は消費税8%に抵抗があるので、売上がやや落ちている。
		旅行代理店(所長)	販売量の動き	・当然ながら、消費税増税による3月までの駆け込み消費の反動減があり、4月の客の動向は至極鈍い。ただし、外国人旅行者は増えていると感じている。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・4月からの消費税増税が旅行需要にかなり影響しているようである。
		タクシー(経営者)	お客様の様子	・月初めより全体的に動きが悪く、前年同月と比べて4%の減収である。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・新規加入が低調であると共に解約も続いている。
		ゴルフ練習場(経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響で、前年と比べても動きが鈍くなっている。
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・消費税が上がっても忙しい店と暇な店の格差は大きくなっている。多くの固定客を持っている店は忙しく、ほとんどの個人店はさほど忙しくない状況である。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・消費税が上がったため、4月1日から来客数がぐっと減っている。1日平均20人のところ、たった2人の来店で大変驚いている。月の前半は少なめ、後半は平均に近付いたが、増税の影響は想像以上である。
		住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・消費税増税1か月で、住宅は高額商材なのでやはり消費の冷え込みが感じられる。問い合わせも少ない。
	悪く なっている	一般小売店〔衣料〕(経営者)	販売量の動き	・4月は時期的に制服販売が良かったが、それが終わると極端に流れが変わり、悪くなっている。
		百貨店(店長)	販売量の動き	・消費税増税の影響は3月の駆け込み、4月の増税月、共に予想より大きかった。特に4月は、宝飾をはじめとする高額品はもちろんのこと、化粧品や日用品で買い置きできる商品群の不振が大きかった。
		スーパー(経営者)	競争相手の様子	・消費税増税後、価格競争が激化している。
		スーパー(店長)	単価の動き	・いよいよ増税になり、売上が急落となったが、生鮮食品を中心に第2週目ぐらいから売上自体は戻りつつある。日用雑貨など、買いだめのあった商品に関しては全く不振なので、これが消費され尽くされれば戻ってくる。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・売上が前年比93%、来客数はどうにか101%を維持している。客がお金の使い方に非常に気を使っている。
		衣料品専門店(販売担当)	来客数の動き	・消費税増税の影響で来客数が激減している。今月は年金支給月なので若干期待をしていたが、残念ながら相当期待外れで、かなりひどい状態になっている。売上に結び付かないという以前に客が来なくなってしまっている。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、3月から受注減が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・車の販売及びサービス工場併設の店舗であるが、今月とはとにかく悪い。3か月前は良かったが、3割～4割減の話ではなく、今月は6～7割減少という状況である。サービスの在庫も少なく、車の販売も悪い。	
		乗用車販売店 (管理担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、販売台数は大幅に減少している。	
		乗用車販売店 (統括)	来客数の動き	・消費税増税による駆け込み需要が3月で終了し、新規販売が激減している。	
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・消費税が増税され、売上は前年の90%となっている。	
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・旅館業界は消費税増税により5%程度売上が落ちている。また、ゴールデンウィークの日並びが悪く、この影響で20%、合計25%程度は売上が下がっている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月初旬は歓迎会等などがあり、消費税増税などあまり影響がないかと感じていたが、中旬以降、月末も全く動きがなくなってしまった。営業等で地方に来た人が、今まではタクシーを利用していたが、レンタカーを使うようになってきている。タクシー代の半額以下で借りられるそうである。	
		通信会社(経営者)	競争相手の様子	・4月だけで競合していた3社が倒産、もしくは代位弁済した。話に聞く限り、この状況はまだ続く。	
企業 動向 関連 (北関東)	良く なっている	その他製造業 [環境機器] (経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・太陽光発電について、会社の屋根等とは別に市内外7か所に2万坪の敷地を一昨年より購入し、3月下旬より1か所目の2,300坪の発電が完成、増設は別で約50キロワット、大手電力会社との20年間の連携が開始となった。最初の1か月間で300万円超えになり、来年の10月までに4,000キロワット超えの見込みである。	
		やや良く なっている	化学工業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・1月までがあまりに悪かったため、原材料の手配を控えてきた。ここにきて急激に受注量が増えてきたが、材料不足のために思うように生産ができず、取引先から納期が遅すぎるとのクレームが続いている。
			一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・全体が忙しくなってきたという状況とは言えないが、今まで動きが出ていなかった仕事が少しずつ動き出している。久しぶりに連絡をもらったという取引先がいくつか出てきている。
			輸送用機械器具 製造業(経営 者)	取引先の様子	・受注量、販売量の動き、取引先の様子はこの2か月くらいまあまあ状態なので、やや良くなっている。
			輸送用機械器具 製造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・大手自動車メーカーの3か月見通しでは、4月の消費税増税での反動で4～5月は大幅に落ち込んでいるが、非常に高水準の中での落ち込みなので、フル生産が続いている。原材料やエネルギー関係で燃料代などが上がっており、増収減益の状況になってはいるが、なんとか落ち着いているという状況である。
			建設業(開発担 当)	受注量や販売量 の動き	・建設業であるが、公共工事はアベノミクス効果で前年比10%増の発注額である、ただし、直近1か月の発注額は前年の半分となっており、ここにきて今後の発注額が心配な状況である。当社も受注額は前年比10%増の状況なので、今のところは満足である。
			その他サービ ス[情報サー ビス](経営者)	受注量や販売量 の動き	・引き合い、受注量共に増加傾向にある。消費税増税の影響はあまり見受けられない。
			変わらない	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き
		食料品製造業 (営業統括)		受注量や販売量 の動き	・観光客の数、売上額共に前月よりやや回復しつつあるが、前年同期と比較するとほとんど差がない。
		窯業・土石製品 製造業(総務担 当)		受注量や販売量 の動き	・良くもなければ悪くもない状態である。
		電気機械器具製 造業(経営者)		受注量や販売量 の動き	・一段とコスト引き下げの要請が多く、厳しい状態が変わらない。良い企業と悪い企業が二極化している。
		精密機械器具製 造業(総務担 当)		受注量や販売量 の動き	・3月は決算月でもあり、公的機関への大口納品により相応の販売量を確保できた。しかし4月に入り、売上、受注量共に落ち込み、3か月前と特に変わらず厳しい状況となっている。
		その他製造業 [宝石・貴金 属](経営者)		取引先の様子	・消費税増税によって3月に駆け込み需要があった分、4月の売上は減少している。しかしながら小売店はそれほど影響を受けていない。3～4月の2か月間でみると前年並みである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・4月に入り天候も良く、インターネット通販やホームセンター向けのパーペキュー用品、特に墨、コンロ等のレジャー用品の物量が大変増え、前年を10%を上回っている。ただし、原油高による燃料コスト上昇があり、利益は薄くなっている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・消費税増税前の駆け込み需要があったが、景気が良くなったとは感じない。
		金融業（役員）	受注量や販売量の動き	・業種が限られている。自動車、建設、医療、介護、この部門だけで他は変わらない。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告宣伝の受注は前年と変わらない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・建設関連にわずかな動きが見られる程度であり、企業の取引活動に特に大きな変化はみられない。消費税増税後の落ち込み等についても織り込み済みで、ほとんど切迫感を感じられない。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・業務の中に建物の登記があるが、やはり消費税増税の影響を受けているので、少し上向きつつあったのが、やや元に戻りつつあるという段階である。
		社会保険労務士	取引先の様子	・オリンピック関連で東京のビルの解体工事を請負うなど忙しい業種が一部あるが、全体的に大きな動きはない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税や原料高騰を受けた規格変更で、1割くらい消費が冷え込んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・やはり消費税増税の関係なのか、4月の半ばからぐっと減速し、2割くらい売上が落ち込み始めている。回復するのは秋口かと思うので、それまでは辛抱かと思う。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響なのか、取引先の生産が下降気味である。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・時期的に閑散期ではあるものの、それを考慮しても、例年より発注もなければ、仕事もない状況である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・消費税増税での反動減の影響がみられる。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・従来と同じ条件では管理契約の更新ができない物件がある。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月のチラシ出稿量は前年比89.7%となっている。自動車、家具、衣類関連はじめ、ほとんどの業種で折回数、枚数、サイズ、色数等減少している。生活必需品である食品スーパー関連でも減少している店がある。
悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後は受注量、販売量共に激減している。	
	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・今年度の建物設備定期点検の頻度を削減されるケースが増えている。	
雇用関連 (北関東)	良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・このところ好調で、12～13年ぶりに売上が元に戻っている。これが長く続けば良い。
		人材派遣会社（支社長）	採用者数の動き	・直接雇用の意識が強く、採用に対する前向きな依頼が多い。
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業、特に金属、機械関連の求人が増加傾向にある。
	変わらない	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人を含ん引する製造業の一部企業において、受注増、新製品開発など、採用に若干の明るさが見え始めたが、大手製造業1社で数百人のリストラが始まり、労働市場が混乱し始めている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・3月末の求職者の採用率は例年どおりであり、求人市場の状況に変化はない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・土木建築等の建設関係は年度末から引き続き工事が遂行されている。自動車部品関係、電機等の製造業は新年度を迎えたこともあり、求人数は落ち着いている。ガソリン価格等の上昇、消費税の増税などから、小売全般は幾分引いているようにみられる。
		人材派遣会社（管理担当）	雇用形態の様子	・最近、半年の派遣契約が2か月更新へ変更するなど、短期の派遣業務形態への移行がみられる。
求人情報誌製作会社（経営者）		周辺企業の様子	・4月の消費税増税により小売業全般の売上が低迷、パートやアルバイトなどの募集も前月と比べると少なくなっている。今後も積極的に求人をする企業はあまり望めない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	それ以外	・消費税増税の影響で広告の解約が出ている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・製造業などでは求人数が伸びているが、小売業の求人は消費税増税の影響を受けて減少している。
	悪くなっている	人材派遣会社(営業担当)	それ以外	・昼食時、消費税増税で便乗値上げをした店舗には驚くほど客が入っていない。財布の中身は変わっていない。

4. 南関東(地域別調査機関:(株)日本経済研究所)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (南関東)	良くなっている	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・4月に入り、新学期や新入社員など周辺の人の動きが非常に多くなっている。
		その他小売〔雑貨卸〕(経営者)	単価の動き	・政府の施策がすべての得ているため、景気が良くなっている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・サラリーマン等の来客数が増えてきて、順調に前年をクリアするようになっている。前年比10~20%のプラスと、景気が多少戻ってきたような感じである。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内団体旅行の予約状況が、前年比130%となっている。前年よりも団体運賃が上がっているにもかかわらず、好調である。
やや良くなっている		商店街(代表者)	単価の動き	・消費税増税に伴う販売単価の改正が、スムーズに客に受け入れてもらえたため、増収以上に販売量も微増している。
		一般小売店〔家電〕(経理担当)	来客数の動き	・先月は、消費税増税前の駆け込み消費で高額品が売れたが、今月はLED照明など、小物が売れている。来店客も少し増えている。
		一般小売店〔家具〕(経営者)	販売量の動き	・3月の初めまでは非常に悪かったが、その後駆け込み需要で多少良くなってきて、4月に入ってからもなんとか好調が続いている。
		百貨店(副店長)	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みが想定よりも小さい。客はあまり気にせずに来店している。買いだめ購入の多かった化粧品や健康食品でも、大きな落ち込みがないまま推移している。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・やや良くなっていると答えたが、3か月前が少し悪かったので、それに比べて良くなっているということである。先月よりは少し厳しくなっている。
		スーパー(ネット宅配担当)	販売量の動き	・商品の値上げもあり、単価は上がっているが、販売量の変化はさほどない。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・4月の第1週は少し影響を受けたが、思ったより消費税増税の影響は出ていない。
		衣料品専門店(営業担当)	販売量の動き	・消費税増税により、買い控えがあると思われていたが、天候、気温にも後押しされ、春のコート、ジャケットをはじめ、インナーのカットソー、ボトムなど、幅広いアイテムが数多く売れ、前年比110%となり、春のスタートダッシュをきることができた。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・1~2月にかけて飲食業は一番暇な時期なので、3か月前と比べれば、4月はいくらか良くなっている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・消費税増税にもかかわらず、3月に引き続き4月も、客は来店している。特に消費を控えるといった行動もなく、飲食店にはあまり増税の影響は出ていないようである。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・消費税増税にもかかわらず、季節柄客の気分も良くなっているのか、ここにきて販売量の動きが多くなってきた。
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税に伴うタクシー料金改定で利用客が激減すると考えていたが、前回の値上げのときに比べると、あまり心配はいらなかったようである。連休前の週末などはむしろ空車が足りない状況であった。国民全体がアベノミクスへの期待感と連帯感でマッチしているような感じが漂っている。
		通信会社(局長)	販売量の動き	・通信環境の見直しによって、競合他社間での獲得競争が激化している。全体のパイが増えているかはわからないが、活況への期待はある。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・4月に入り、天候にも恵まれた日が多く、多数の来場者があり、ここ数年で最も多い来場者数となる見込みである。満員以上の来場者がある日もあった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・取引先が将来のことを見据えた、事業の根幹に影響の出るようなプロジェクトを動かそうとしている様子で、目先の利益だけを考えてはいないようなので、やや良くなっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新年度になり、3年ほど前から計画していた民間の物件がやっと動き始めて、具体化しそうである。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・当社は住宅を主に扱う不動産デベロッパー業と総合建設業であるが、消費税増税前の駆け込み需要は、あまり発生しなかった。4月に入ってからも販売量は伸びておらず、特に景気が良くなっているとは感じられない。一方、建設業においては、公共工事の発注量は非常に増えているが、工事原価が異常に上昇しているため、発注価格と合わず、不調が続いている。発注側の設計価格を見直して欲しい。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・大きくは変わらないが、3月に比べれば良くなっている。契約数も増えている。建築も3月に比べれば工事が進む方向に向かっている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税により多少の落ち込みがあるが、4月は大した影響がなかった。ただし、一般的に落ち込んでいる。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・町内に競合の文房具屋がなくなり、独占的な販売が可能で、入学、進学時に割引セールを実施したこともあり、ノート並びに学習帳が非常に売れ、売上が伸びた。しかし、今後しばらくは売れる物がなくなるので、あまり良くない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・業種にもよると思うが、やはり消費税増税により3月に買物をしてしまった客が多いと思われる。本店が所属するような点在型商店街だと集計は難しいが、増税で当面は買い控えがあるのではないかと。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	販売量の動き	・気温も高くなり、消費税増税前の買い置きも影響したのではないかと想定される。食料品については、賢い食生活をしていると見受けられる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・消費税増税後、急激に落ち込むと予測していたが、かえって昨年よりも上がっている。3月の年度末ほどではないにせよ、ある程度案件もあるので、悪くはなっていない。来客数も減っておらず、単価も下がっていない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・例年実施している新茶の予約客数は昨年並みであったが、1人当たりの買上点数が減り、売上も下がっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要により、4月に入り時計、宝飾品をはじめ、化粧品等は厳しい状況である。一方、婦人、紳士ファッション関連については、大きな反動はない。また、4月を通じて、ゴールデンウィーク直前には、比較的売上が復調傾向にあり、残りわずかな期間ではあるが、ゴールデンウィーク需要により、増税の影響はもう少し小さくなりそうである。また、海外、特にアジア系の観光客が最近増えつつある。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・消費税増税後は、思っていたより落ち込みが少ないが、もう少し様子を見ないと分からない。
		百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・4月に入り、売上高は前年比2けたのマイナスであるが、この原因が消費税増税による消費マインドの低下なのか、3月に大きく売上を伸ばした反動減なのか、今の時点では判断が付きにくい。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税もあるが、来客数は前年を上回っている状況でも、客の買い方が大変シビアになっていて、トータルとして販売量が前年を超えていかない状況にある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・2～3か月前は、消費税増税を控えて、客は様子見で買い控えをしているような感じだったが、増税後の今月は、慎重に商品を選んで買い控えをしているので、あまり変わらない。
		スーパー（仕入担当）	お客様の様子	・消費税増税後、買上点数が前年を下回る状況が続いている。週を追うごとに回復しているが、客の商品購買に多少の影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・消費税増税により、どうなることかと思っていたが、4月の売上は前年同月比98%と思ったよりも良い数字が出た。単価が20円ほど、3～4%下がったが、客数はほぼ横ばいある。たばこの売上が減ったことによりマイナスとなったが、それがなければプラスで推移している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・消費税増税前にまとめ買いのあったたばこなどの商品を除き、食品関係の売上は、増税前と比べ、ほぼ同水準で推移しており、大きな変化はない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後も前年を超えているが、スタッフの話から先行きには不安を感じている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税後、4月に入って来客数がまだ戻ってきていないためである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月は駆け込み需要がなく売上が低下し、今月も低下したまま推移している。消費税増税の話題は上っておらず、影響は不明である。また、ゴールデンウィーク用の買物もない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・4月に入って、消費税増税、物価上昇、年金収入の減少など、消費を冷やす要因が目立ち、消費を控える様子がうかがえる。ただし、月末になって天候も安定してきているため、売上は少し戻っているが、余計な買物はしていないようである。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・3月に商品券を出して、4月に回収し、イベントも仕掛けるなどの対策を行った。来客数、売上共に95%、3～4月計2けた増であった。また、本体価格の表示にしたので安さの演出ができています。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・4月前半は消費税増税の影響で苦戦したが、中旬以降は持ち直し、緩やかに回復に向かっている。増税のため、1～2割の売上が落ち込むことも覚悟していたが、まずはほっとしている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税による駆け込み需要で、先月は前年比160～170%に伸びた。4月は前年同月比で約8割であり、駆け込み需要の影響が反映された結果となっている。ただし、潜在的需要はまだあるので、後半6～7月以降になれば持ち直すのではないかと考えている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	販売量の動き	・やはり、消費税増税の影響が出ている。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税後、同業のおよそ半数は価格据え置き、実質値下げで対応している。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の1月23日までの売上は前年比104.6%、来客数は同99.8%である。今月は25日までで売上が前年比107.7%、客数が同100.0%である。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・消費税増税により良くなると思ったが、さほど変わっていない。ただし、良い場所は客が入っているが、少し奥まったような場所は客入りが良くない。場所によるが、あまり変わっていない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・団体旅行の取扱数に大きな変化はないものの、消費税増税により例年の予算では旅行できなくなってくるのが予想されるので、今後に影響が出てくる可能性がある。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・4月は消費税増税の影響で、前年度と比較すると悪くなっているが、3か月前と比較すると同程度である。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・テレビ、インターネット、電話の獲得は堅調だが、キャッシュバックを止めた影響で獲得が予算ぎりぎりの状態であり、関連サービスの販売促進によるケーブルテレビ紹介案件も減少している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響も見えず、転居時期という季節的要因を除けば例年並みの契約数となっている。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・量販店などにおいては消費税増税の悪影響も出ている感はあるが、全体的にその影響で景気が衰退しているようにも感じない。現況は様子見で、来月あたりから上下の兆しが出てくるように思える。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の加入動向に関しては特に変化は感じられない。相変わらず高価格のコースへの加入は少ないが、解約についても特に変化を感じていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（総務担当）	来客数の動き	・消費税増税の駆け込み需要後の消費減少期であるので、基本的には変わらない。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・現時点での今後の商談量から、変わらない。
		通信会社（管理担当）	お客様の様子	・加入者の増加の傾向は、前年や前月に比べ特に大きな変化はない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・前年実績と比べるとさほど変わらないが、正月は来客数が多いため、3か月前と比べると若干減っている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者は、景気ではなく天候に左右されている。
		ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・消費税増税後の来客数は特に変化はないものの、リピーター主体で、新規、若者の増加はない。
		パチンコ店（経営者）	競争相手の様子	・4月の中旬は少し減ったような気がしたが、現在は以前と比べ、ライバル店を含め朝やピーク時の夜の来客数にさほど変化はない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	販売量の動き	・来客数及び1人当たりの購入単価がほとんど変わらないので、客数増が見込めないなかで、販売量が増加しない限り増収にはつながらない。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・小さな物件及び改修計画の依頼は多少出てきているが、実際に契約に結び付くかは不明である。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・消費税増税により、3月までは駆け込みの注文等が多少増えたかに見えたが、問題は4月以降どうなるかである。今後は、建築資材の高騰や、人件費つまり職人の不足により、仕事が進まなくなる状況も出てくるのではないかと。先行きは予断を許さない状況である。
		設計事務所（職員）	それ以外	・消費税増税後1か月が経過したが、特に変化は感じない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約7割となった。3か月前と比べると多少の販売量の増減はあるものの、景気はやや悪い状況のまま変わらないと判断した。新規の来場者数も減っており、消費税増税の駆け込みによる反動が明らかに出ている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・契約数が伸びない。例年よりずっと悪い。
		やや悪くなっている		商店街（代表者）
商店街（代表者）	それ以外			・消費税増税前の駆け込み需要がすごかったので、その反動は間違いなくきている。ただし、積極的な買い控えというよりはマインドの問題が大きい。
一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き			・消費税増税後、本当に商品の動きがなくなった。今後どうなっていくのか、非常に不安である。今後商品がどのように出ていくのか、そういった話さえもなくなっている状態である。
一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き			・消費税増税前の駆け込み需要が終わったので、景気はやや悪くなっている。ただ、当店の客層が、あまり価格に厳しくはないので、そこそこは動いている。パソコンのOSのサービス終了による注文が結構あった。待っている商売ではないので、アクションをかけるといういろいろな事に結び付く。
一般小売店〔茶〕（営業担当）	来客数の動き			・今月は、イベント会場にて、大きなお茶の売出しがあった。個人向けの販売だが、当会場への来場者数も昨年より2割少なく、お茶の売上も前年比2割減少となった。通常であれば、新茶の時期であり、売上も期待していたが結果は良くなかった。
百貨店（売場主任）	販売量の動き			・化粧品は3月の駆け込み需要の反動で、約30%程度の落ち込みとなっている。店全体でも約10~12%の落ち込みとなっている。
百貨店（営業担当）	来客数の動き			・集客状況が悪い。消費税増税の問題も大きいですが、婦人服はトレンドが出ていないことも集客減の原因だと思われる。
百貨店（営業担当）	来客数の動き			・消費税増税後、消耗品や食料品の購買客数が減少し、加えて1人当たりの来店回数も減ってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・3月に消費税増税前の駆け込みが顕著であった化粧品、宝飾品等の反動が大きく、客の様子としては、増税直後ということもあり、必要のない物は購入しない動きが強い。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・消費税増税があり、買い控えが起きている。増税の食品への影響は衣料品、雑貨と比較して少ない。
		百貨店（販売管理担当）	お客様の様子	・想定内だが、消費税増税前に駆け込み需要が顕著だった化粧品、宝飾、時計などの商品群が反動で苦戦している。また、来客数に大きな落ち込みは見られないが、売上対策で実施しているセール品の売上だけが伸びており、客の購買意欲はいまだに回復していない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客は、消費税増税前の駆け込み需要の反動により当面は買い控えをしている様子で、今まで以上に価格にシビアになってきている。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・3月の買いだめの影響で、生鮮食料品以外は大きく前年の数字を割っている。店舗計の売上も95%ぐらいで推移している。
		コンビニ（店長）	競争相手の様子	・近隣に競合店が新規開店したため、影響を受けている。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・消費税増税により、先月は衝動買いなどでにぎわっていた。今月は買い控えが生じている。
		家電量販店（営業統括）	販売量の動き	・3月末の駆け込み需要の反動から、今月は大型家電を中心に販売数量が小幅に止まったものの、減少した。また、OSのサポート終了に伴って、企業を中心にパソコンの買換えを進める動きは活発だが、商品の供給が間に合わず、客の選択肢が狭まって販売機会を逃す展開となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が今月から5割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・消費税増税後、来客数が激減して今月は新車の販売が前月の3分の1程度になった。駆け込み受注の反動が出ている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・必要に迫られての買換えが多く、値引き対応も厳しい。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・3月には消費税増税前の駆け込み需要があったが、4月分が前倒しになっただけで、4月の売上はその分落ち込んでいる状態である。その結果、伸び率はそれほど良くない。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	販売量の動き	・やはり消費税増税が影響している。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	販売量の動き	・国内の4月は前年同月比90%強にとどまりそうである。海外も目立った動きはない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・消費税増税の悪影響は確かにあるが、思っていたよりも影響が小さい。物販は60%マイナスだが、そのほかはそれほど大きな影響は受けていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣での大型イベントによる宿泊客数は減少していないが、朝食付きプランの販売が減少し、表示料金の安い素泊まりプランが増えた。そのため、レストランでは朝食の利用客数が前年比で2割減少している。また、平日のランチ利用もサラリーマンやOL及び婦人客の利用が若干減少している。一方、毎年定期の人事異動をする職場の歓送迎会は年々人数の減少はあるものの受注できている。宴会は消費税増税前に得意先招待会を実施した企業等もあり、4月は非常に厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・消費税増税後ということもあり、特にレストランでは利用控えによる影響が出てきている。販売量で前年比マイナスとなっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・海外旅行など、消費税はあまり関係のない業種だが、消費税増税を境に客の動きが非常に鈍くなっている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・旅行代金はほぼ据え置きであるが、消費税増税により申込、問い合わせが減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・個人の販売の動きが鈍い。例年だとゴールデンウィークの2週間前に駆け込みの申込があるが、今年はそれも少なかった。法人関係についても、新年度が始まったということもあるだろうが、6～7月の仕事の動きが鈍い。どちらも例年と比べて動きが鈍い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、予想通りタクシー業界も消費税増税により落ち込みが厳しくなっている。今後徐々に回復するかどうか注目しているところである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・1日を通して利用は減っている。消費税増税による影響で深夜の利用者と長距離の客が明らかに減っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税の影響で、残業等でいつも利用している会社の客が減っている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・OSのサポート終了に伴い、パソコンが故障中もしくはあまりインターネットを利用していない客による、この機会に合わせた解約が増加している。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・加入件数は、好調だった3月の影響で前半は伸びたが、その後伸び悩んでいる。当月は合計でぎりぎり目標数字を達成したが、新規の動きは良くない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・繁忙期が終わり、新規の契約も減少傾向にある。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税後、収入は変わらないか減少した客が多く、消費意欲が下がっているように感じる。4月から新しい電話のサービスを開始して契約数は増加しているが、これは他社サービスと比較して電話料金が安くなるためであり、客は支出を減少させることを考えているように思う。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響で、景気はやや悪くなっている。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	来客数の動き	・自動車業界では、消費税増税前の駆け込み需要が発生し、本来であれば4月以降に需要があった客層が、消費税増税前に移っており、4～6月の対象顧客がその分だけ減るという状態になっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税増税による影響か、受注が大幅に下がっている。売上については昨年9月の駆け込み需要の受注残があるため、受注ほどは落ちていないが、今後は更に響いてくる。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・消費税増税後の注文量の落ち込みが顕著である。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税により、客の気持ちが非常に閉鎖的というか、買物に対して注意深くっており、消費意欲がかなり落ち込んでいる。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・消費税増税に伴い、来客数が減少しているため、売上も減少している。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・消費税増税後の買い控えがある。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・消費税増税により、少なからず余波があった。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・今月は消費税増税の影響が最も強い。3月中の駆け込み需要が想定以上にあり、その反動が大きく表れている。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響から、入店、売上共に厳しい状況が続いている。ただし、4月後半は持ち直している兆しもあり、今後の推移を見ていく必要がある。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、主に宝飾品や耐久消費財などの買い控えの影響が大きい。
		百貨店（広報担当）	それ以外	・3か月前は、株価が1万5千円前後で上昇の気配があり、収入面では大手企業を中心とした給与アップのアナウンス効果があり、2か月後の消費税増税に備えた自己防衛策なども重なって、消費マインドは上昇傾向にあった。現在は増税が実施され、客は買いため品の消化をしつつ経済の方向性を様子見している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・消費税増税後、歳事期、オケージョン需要は堅調に推移し、主力の衣料品も後半には回復基調にあるが、高額品の影響は依然大きい。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・想定されていたことではあるが、宝飾品、特選などの高額品、化粧品、肌着など消耗品を中心に、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が出ている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は前年並みで、それなりに入っているが、やはり消費税増税後、買上点数が軒並み減少しており、前年の95%で推移している。必要な物以外は買わないという状況が続いている。価格表示については、本体価格、税込価格というダブル表示を行っているが、見づらい、分かりづらいと言う声があり、不振の要因になっている気がしている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・3月の消費税増税前の需要の伸びに対して、4月に入ってからの上、客の買い方の状況は、想定以上に財布のひもが厳しく締められているような気がする。日ごろの買物、もしくはショッピングを楽しむという客数自体は5%ほどの低下だが、売上の8割ということで、欲しいものは買い控えて、必要なものしか買わないという状況が続いている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・今月は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減がやはりある。ただし、予想よりも下げ幅が少ない状況で推移している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前月は消費税増税前の駆け込み消費があり、それでもなお、やっと前年を上回ったという状況であった。今月は、駆け込み消費の反動があり、来客数は前年同月比約90%、売上も約90%と、いずれも低下している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の反動により、今月は非常に悪かった。今後は上向くと考えている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要による前倒しがあったため、4月の来客数に大きく影響している。
		家電量販店（統括）	来客数の動き	・消費税増税による影響が、想定内で顕著に表われている。夏商戦にて、猛暑が来なければ上期は10%ダウンとなる。
		家電量販店（経営企画担当）	単価の動き	・消費税増税後の反動減が顕在化し、客単価が前月に比べて大きく下がっている。来店を促す意味で意識的に価格訴求を行っていることもあるが、それ以上に下がっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・当社の販売台数や利益から見ても、かなりの落ち込みがある。来客数も4月前半に比べると増えてはいるが、かなり少ない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税による前倒し販売の反動で、販売量の激減、サービス在庫の鈍化があり、大幅に悪化している。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・4月の消費税増税以降、特に高額品の動きが非常に悪い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・首相のTPPへのはっきりしない態度等は、中小企業にとってはかなり痛手である。参加するしないではなく、はっきりしないことによって逆に輸入品は高くなっている。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・今までは、耐震診断の業務が多くあったが、各行政の学校等において耐震診断は約9割ほど完了し、残りは少なく、意匠的な設計も非常に少なくなっている。そういう中での年度末で、動きとしては最悪の状態である。
企業動向関連 (南関東)	良く なっている やや良く なっている	○	○	○
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・消費税増税前は、個人経営者からの駆け込み需要が多少あった。4月に入りスピードが要求されたが、一方で、仕事の量が増してきた。各企業がお互いに努力している感じである。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑とかゴム印の販売、並びに名刺印刷などを営業しているが、今月は、祖父母の不用品を作り直したいというリフォームの注文が多い。必要にせまられていない需要も増えてきたと感じている。
建設業（経営者）	取引先の様子	・職人単価の高騰により、やや良くなっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・繁忙な企業が多いが、社員を増やすまでには至らないようである。物件も見ながら仕事を断っているのが現状である。	
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税の駆け込み消費が終わり、受注が落ち込むと予想していたが、多少は下がったものの、政府のベースアップの声がけからか、戸建て住宅の話や工場等の新築計画の話が出ており、受注につながっている。	
		不動産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・土地は買い注文の方が売り注文より多く、中古物件の引き合いが多い。	
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当社の信頼が上がったためなのか分からないが、コンペではあるものの、新規相談が沢山来るようになってきている。	
		税理士	取引先の様子	・消費税増税後も、売上は前年と比べそれほど落ち込んでいない。	
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・この時期は例年、公共事業の落ち込みが激しいが、今回は例年より落ち込みが少ない。	
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	競争相手の様子	・案件が多く断っている状況だが、単価はまだ上昇していない。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税に伴う駆け込み需要に影響されてか、今年に入ってからマンションにおけるインターネット環境の整備に当たる受注件数が伸びてきている。年度末は特にその傾向が強くなったことから、4月期も影響が残り、前半は好調であった。	
		変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月同様、商品の動きが良くない。財布のひもが固くなったようである。
			食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・浮き沈みしたが、トータルとしてはあまり変わらない。
			繊維工業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後に注文が落ち込むと思ったが、組合員の受注量の状況を見ると、注文量等は若干影響があったものの大幅な落ち込みはない。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・電話、ファックスによる注文や見積りが、3月に比べて激減している。
			プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、今月は住宅関連部品等の受注が相対的に減少したが、医療品容器や化粧品容器などの成長分野で、新年度に入り新企画が一気に決まりだしたので、一時的な落ち込みだと思っている。
			金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・今年度に入ってから、計画の稼働の立ち上がりが遅くなっているようである。
			金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で受注量が下がると考えていたが、当社の受注量は増税前と変わらない。5～6月の取引先からの内示を見ても下がることはなさそうである。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部の業態いわゆる復興関連の対策事業など、景気に活発な影響が出ているところも出てきているが、当業界では景気の先行きははっきり見えない。
精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き		・物価は上がっているが、利益改善にはなっていない。		
その他製造業〔鞆〕（経営者）	取引先の様子		・消費税増税前はかなり警戒して、得意先あたりも安い商品等いろいろ工夫していたようだが、増税後しばらくしても増税の話題が出ないところを見ると、変わっていないのではないかと。		
建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き		・商品が売れない。		
輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き		・新規納入先は増加傾向にあり、業務量増加につながるのではないかと期待をしているが、1店舗あたりの業務量が減少を続けているため、大きな変化は見られず、むしろ悪いような印象がある。		
輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き		・消費税増税後の反動を懸念していたが、受注量はそれほど下がっていない。		
金融業（統括）	取引先の様子		・消費税増税で、どちらかという一服感があり、景気は上向いても下向いてもいない。		
金融業（支店長）	取引先の様子		・大企業は売上増減にかかわらず増益決算が増えており、給与もベースアップを導入する動きが出始めており、景気が良くなっている気がする。だが一方、中小企業に同様の動きはない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（支店長）	受注量や販売量の動き	・取引先の受注から販売の様子だが、建設業に関しては1～3月とやや受注があって、まだ向上し続けているということである。小売業に関しては消費税増税後ということで心配された落ち込みもそれほどではなく、全体としてはあまり変わらない。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・駅から徒歩6分、38～50平米の新築1LDKタイプ、賃料87,000～95,000円、共益費3,000円の大手メーカー物件の8戸が空室のままである。当社管理の駅から徒歩5分の1K8室については、4室が先々月から空いていたが、賃料を5,000円下げて35,000円とし、更にオーナーから1か月分の広告を負担してもらい、やっと3室が契約完了となった。この取引における当社の手数料はゼロである。インターネットの時代なので、入居者の更新時にも賃料の調整が必要となり、オーナーにとっては厳しい状況となっている。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・当社のマンションの販売状況が、消費税増税後更に悪化している。顧客からも販売価格が上がった分の見返りを求めているので、対応に苦慮している。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規案件のオファーがあったが、織り込んでいた別件との差し替えだったりする。当該新規案件も、景気回復の声に踊らされての施策リニューアルだが、受注側にとっては価格維持のまま用事が増える傾向が強い。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税による悪影響は、思ったより少ないが、良くなっているとは思わない。
		税理士	それ以外	・鉄道駅付近を夜いつも歩いているが、商店街にある表通りの飲食店に客が入っていない。店が継続してきたということは、昔はそれなりに客が入っていたと思うが、現在は本当に空いている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・資金繰りの厳しい会社はまだ見受けられる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・消費税増税の影響が懸念されたが、それほど影響がなかったという取引先が目立つ。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・商工会議所の職員が消費税増税の反動懸念について商店街の店主たちに聞いた話を総合すると、それほど大きな買い控えはないようだ、とのことである。客層が高齢化しており、今月からの昇給やベースアップへの期待もあるのではないかと。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・機械加工等の製造業では、消費税増税の影響は特にないが、低水準の受注が続いている。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量に対し、消費税増税の影響は顕著には表れてはいないが、景気が回復してきているとは言えない。例年より10～15%程度低い状態である。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・若干新規の仕事も入っているが、客単価が下がっているため、売上としては変わらない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現段階では消費税増税の影響が出ているが、軽微である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は官公庁の年度末の仕事も一段落して切替えの時期になり、仕事の動きが少なくなっている。また、会社や商店等も活発な動きが見られない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響、増税前の駆け込み需要の反動減もあり、やや悪くなっている。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・先月末までの忙しさが終わり、駆け込みの反動余波で今月は非常に受注案件が減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度になる4月は毎年売上が良くないが、特に今年は消費税増税のためか、スーパー向けの設備機器の売上がほとんどない。
		建設業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税による駆け込み受注が大幅にあったが、今は反動のためか、引き合いもだいぶ減少している。当地区では、これからも急に引き合いが増えるような様子はない。
		輸送業（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税により、駆け込み需要が一段落し、4月は販売量も落ち込んでいる。早く回復しないと経済に大きな影響を与えるのではないかと懸念している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・取引先の話によると、今月に入って極端に波があるということである。注文が取れたり取れなかったりということが多く、我々の仕事も、今日は4台、5台あるかと思えば、明日は1台もないという状態が続き、大変困っている。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税による駆け込み需要の反動が見られる。
		金融業（役員）	取引先の様子	・消費税増税に伴う駆け込み需要の影響から、スーパーやガソリンスタンド等の小売業を中心に業況が悪化している。建設、不動産は増税の影響は少ないものの、中小企業金融円滑化法で持ちこたえてきた企業の一部に事業継続を断念する動きが見られる。
	悪く なっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・いつも4～5月は落ちるが、例年より落ち方が激しい。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・新年度になり、荷主の出荷量が激減している。荷主からは、しばらくは出荷が少ないとの情報である。
雇用 関連 (南関東)	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣、紹介共に前年よりも依頼が増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・各企業とも欠員補充に際して、人材派遣の利用をここ数年凍結していたが、業務繁忙に伴う欠員補充のため、人材派遣を再度利用する企業が増え、求人数の増加につながってきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・国内、海外の経済状況は短、中期的に安定しており、求人、採用決定の状況も悪くはない。国内外の垣根も低くなってきている感じがするが、海外で仕事のできる人材が求められる。状況に応じた採用の仕方にシフトしてきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・どの業種でも特に求人数は増えていない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・4月以降も企業からの求人依頼は減っておらず、依頼に対するマッチングに苦戦している。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・客の求人ニーズは高い。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・会社は増益となっているが、社員の給与には全く反映されていない。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求職者は増加傾向にあるが、求人数はここ3か月ほど横ばいである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・企業の新卒採用意欲は高く、内々定が出始めた。しかし、学生の意欲、熱意が感じられず、おとなしい印象であるため、内定を1～2社もらう学生ともらえない学生にはっきりと分かれ始めた。採用継続中であるが、予算をかけ新たな動きをする企業は少ない。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	採用者数の動き	・新卒者の入社があったためか、中途採用の求人数が減っており、また、中途採用の案件も極端に少なくなっているように思える。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ2か月の新規求人数は前年同月比で1けた台の増加率となり、増加傾向も頭打ちになってきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・4月はハローワークが一番混雑するが、新規求職者が前年同月比で10.9%減少している。通常、景気が良くなってくると転職が活発化してくるが、そのような状況に見えない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、パートタイム求人の減少幅が大きかったが、これは消費税増税前の駆け込み需要に対する短期雇用が一段落したためではないかと思われる。一方で、フルタイム求人は微減で、月間有効求人数は引き続き微増を続けており、求人の動向に変化はない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新規で入ってくる求人は引き続き前年を10%程度上回っており、消費税増税の影響はあまり感じない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・求人数は依然として、高止まりしている。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	求人数の動き	・新卒求人獲得数は前年同月比で微増の状況であり、大きな変化はない。
	やや悪く なっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月は倒産が1社、廃業が2社あり、新規客を42社獲得ができたが、大口が2件あるほかは、ほとんど小さい規模で、前回の消費税増税時に比べると極めて小さい規模となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良く なっている	タクシー運転手	単価の動き	・3か月前に比べると中距離や短距離で利用する客がやや多い。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・例年4月は閑散期であるが、最近でも高額商品が売れることがあり、ますますの売上となっている。
	やや良く なっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・年代は年配層に偏っているが平日昼間でも客は多い。4月初め頃は、会社帰りの新入社員の来店が夕方には多く、消費税増税にもかかわらず、来客数は2～3か月前よりも増加している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月以降も販売点数は前年より増加傾向にあり、売上高も前年同期を上回っている。
	スーパー（店員）	販売量の動き	・消費税増税の影響がどのように出るか心配であったが、結果的には客単価は横ばいで、客の購買意欲は変わっていないと感じる。	
	コンビニ（企画担当）	競争相手の様子	・競合店舗や業界内での情報から、やや良くなっていると判断する。	
	衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で一気に販売量が増えた反動で、前月よりは減少しているものの、例年の販売量を上回っている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月はずっと悪い状況を想定していたが、問い合わせは多く全体的に車の購入にも前向きで、良い感触を持っている。	
	その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・消費税増税後も来客数は前年比で増加している。	
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で3月には宿泊客が前年同月より30%程増加している。4月になってもまだ余韻が残っているようで、引き続き30%近く宿泊客が増加している。一方で、地元客が中心の昼食・夕食需要は前年よりも30%近く減少しており、相殺となる感じである。	
	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・問い合わせや照会が、徐々に増加してきている。	
	タクシー運転手	単価の動き	・夜の繁華街は相変わらず人出が少ないが、前年同月よりは、やや人出がある。高速道路を利用する中距離の客が多少増加しているため、1乗車あたりの単価は少し上昇し、売上も少し良くなっている。	
	通信会社（サービス担当）	来客数の動き	・ウィンドウズXPのサポート終了を契機とするパソコン等の変更に伴って、光回線の申込が増加している。また、新築物件への移転に合わせた光回線への変更や光回線を利用した映像サービスの申込が増えている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税によりもっと落ち込むかと思っていたが、いつもと変わらない人出がある。
商店街（代表者）		販売量の動き	・消費税増税後の反動で販売量、来客数ともに低水準ではあるが、予想した範囲内に収まっており、特に激しい落ち込みとはなっていない。	
商店街（代表者）		販売量の動き	・消費税率が引上げられたことにより、販売量は若干減少している。	
商店街（代表者）		単価の動き	・消費税増税で客単価がもっと下がるものと予測していたが、客には購買意欲があり、客単価はさほど変わっていない。	
商店街（代表者）		単価の動き	・消費税率アップと商品価格の値上げにより値段が千円未満から千円超となった商品は販売量が落ち込んでいるが、想定範囲内である。値段が千円以下に収まっている商品については販売量が少々伸びている。	
一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）		販売量の動き	・高額品の精肉の売上には消費税率引上げの影響が出ているが、その他の食品にはあまりみられない。	
一般小売店〔電気屋〕（経営者）		販売量の動き	・必要なものは高額でも購入するが、不要なものはたとえ安くても購入しないという傾向が顕著であり、その傾向は、景気に左右されない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・小売業の売上が伸びているとマスコミは報道しているが、地元の商店主との話からは、そのような実感はない。4月に入ってからは売上の伸びに寄与する高額商品の動きが悪い。ただし、自店の場合は前月に店内を改装をしたので他店よりは良い。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	お客様の様子	・客の話では、この先どうなるかは、消費税増税後しばらく様子を見てからでないとわからないという声が多い。当店の売上は、前年同期比とほとんど変わっていない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・式年遷宮による増加を続けていた来客数はほぼ前年並みとなり、落ち着きをとり戻している。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要で4、5月予定の結婚式の内祝いや法事の商品等の予約、精算をすべて済ませる動きがあって売上が増えたが、その反動で売上は伸びない。世の中には好調な会社もあるため、若干は伸びる部分もあるが全体としては変わらず、売上は伸びる傾向ではない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・式年遷宮は終わったが、引き続き客でにぎわっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の影響はほとんど感じられない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み購入の影響で生活必需品の売上は減っているが、減少幅は小さく消費に底堅さを感じる。デフレを脱却し失業率も3.6%と低い数字となり、全体的には消費税率引上げの影響は、前回の消費税増税時よりも小さい。また、各メーカーあるいは販売店ともに新商品を続々と出しているため、マイナスとなる時期は短期間で終わる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税後は消費の低迷が予想されたが、さほどの影響はみられない。売上、販売数とも前年を上回っている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税後の販売量の減少は、少しずつ戻ってはいるものの厳しい状況が続いている。
		スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・消費税増税による買い控えのためか、売上は前年比78%、来客数は同じく79%で推移している。衣料品の落ち込みが大きいほか、食品についても近隣スーパーが低価格型の業態に変更して再オープンし、苦戦している。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みはもちろんあるが、日々の食材は価格が上昇しても大きくは落ち込んでおらず、それほど変化はない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要は少なく、好影響は月末の1週間程度であった。4月以降、多少の買い控えはみられるが、キャンペーン等を実施し来客数は前月比で2%増加している。しかし、購入単価への効果は小さく、単価は5%マイナスで売上高は減少している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年同期と比較して1日あたり20~30人の減少が続いている。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	単価の動き	・前月には消費税増税前の駆け込み需要で生活必需品等のまとめ買いがあり、売上も良かったのでその反動が心配された。しかし、4月になって多少の落ち込みはあるものの想像していた程の反動は見受けられず、3か月前と比べても大きな変化はない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・車の修理や車検など必要な支出は避けられないので、客は、消費税の増税分が高くなった等と口にしつつも変わらず来店してくれる。
		住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、新築戸建て住宅は前年に比べてマイナスとなっている。また、リフォームなどについても契約数は減少している。ただし、分譲住宅・マンションや一般の建築工事については増加傾向である。
		高級レストラン（役員）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込みによる来店はほとんどなかったこともあり、4月以降もその反動はない。来客数は、ほぼ前年並みの動きで推移している。
		一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・消費税率が8%となり、その影響が大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・消費税増税の反動はない。また、この時期特有の宴会需要も取り込むことができたため、3か月前と同様に前年を上回る見通しであるので、景気の動向は変わらないとみる。
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊需要は価格に敏感である。アジアからの団体客は増えているが、国内からのビジネス利用の需要は弱い。宴会需要は、徐々に改善傾向にある。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・新学期が始まったばかりだが、早くも夏休みの家族旅行の問い合わせが多い。既にお盆休みの時期は混雑していて予約が入れない。国内旅行は、消費税の増税で少し値上がりした影響で、1泊以上の宿泊旅行から日帰り旅行にシフトしているように感じる。
		旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークではあるが、4月は飛び石連休となりまとまった客がない。消費税増税に伴って旅行代金も値上がりしていると思っているのか、来客数も少ない。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・消費税率引上げにより旅行代金は全体的に上がっている。しかし、旅行需要は思った程は減っていない。旅行代金微増の影響もなく、旅行申込はコンスタントにある。海外旅行は減少気味であるが、その分、国内旅行が増加している。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・消費税増税の影響は予想ほどではないものの、依然として新規契約数は低レベルとなっている一方で、解約数は高止まりである。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・機器更改による増設工事が増加してきたが、4月に入ってやや減少している。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・4月以降、客からの問い合わせ数は減少を見込んでいたが、今のところは、前年同月と同様に繁忙となっている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・北アルプス立ち寄りルートの人気により、台湾からの旅行者数は上昇している。一般旅行者には変化はなく、横ばいである。
		観光名所(案内係)	販売量の動き	・人の動きは良くなってきている。
		ゴルフ場(企画担当)	来客数の動き	・今月の入場者数は予算比、前年比ともにクリアし、順調に推移している。売上については、予算を多少下回るものの前年よりは増加している。2、3月は天候等の影響で数字を落としたが、今月は3か月前の良好さと段々変わらなくなってきている。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・首都圏の自動車関係業種等では景気が良いようであるが、地方にはまだまだ好況の波が来ておらず、以前と変わらない。
		その他サービス [介護サービス] (職員)	お客様の様子	・消費税率が引上げとなり、客からは増税分の出費が痛いとの声が多く聞こえてくる。買い控えをするというよりも、業者の見直しに動いているようにも感じる。
		設計事務所(職員)	それ以外	・消費税増税前の駆け込み需要で増改築・新築の物件が多数あったため、景気は良くなり受注も増加したが、結局、材料費が高騰し職人も不足して、消費税増税後も完了できない物件もある。そういったこともあり、これから景気が良くなるとは思えない。商売に長けた人は一時的な材料、職人不足に乗じて値上げをするという動きもあり、残念な気持ちである。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・建築業界では職人が高齢化する一方で、東北復興や東京オリンピック関連の需要により完全に職人不足の状況である。人件費単価が高騰しており、消費税の増税と重なり厳しい状況となっている。
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・付き合いのある下請業者の方からは、「3月末を過ぎれば仕事がなくなり、困ることになるだろうと思っていたのに、結構忙しい。」という声を多数聞いている。
		その他住宅[不動産賃貸及び売買] (経営者)	それ以外	・一時的には忙しかったが、繁忙期が終わり先行きに不透明がある。
	やや悪くなっている	一般小売店[自然食品] (経営者)	販売量の動き	・4月の売上は、過去3か月の平均よりも10%~15%ほど減少している。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・消費税増税の影響は予想していたが、特に衣料品などで買い控えが起きている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・4月に入って消費税増税前の駆け込み需要の反動がみられたが、中旬から月末にかけて、売上は前年並み近くまで回復している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響が顕著に表れている。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みは、予想はしていたものの想定以上である。当社全体でも客数が前年の70%程度の店舗が多い。競合先も押し並べて同様の状況であり、3か月前とは雲泥の差である。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・消費税増税後の反動もあり、高額品を中心に幅広い商品群で大きな影響が出ている。目を追うごとに数字は良くなりつつあるが、影響は長引きそうである。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・一般の小売店では客単価が下がっている。今後も若干悪くなる。消費税増税を機に八百屋の廃業が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・消費税増税後は売上減少が続いている。販売価格が上がっている分で客単価は何とか維持しているが、来客数の減少により売上減少という状況になっている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税による売上減少は、想像していたほどの落ち込みではない。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・消費税率が上がった分、購買意欲が下がっている。
		スーパー（営業企画）	来客数の動き	・消費税率の引上げ後は、直前の駆け込み購入の反動などから客数が5%ほど低下している。価格訴求型の業態ほどその傾向が強く、逆にアップグレード業態ほど早い回復がみられる。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・消費税増税前のたばこ等のまとめ買いによる影響で、4月は買い控え気味になっている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ミセス服は春物の流行が一段落し、不足分を付け足すという買物が多くなり、購買単価の低い客が多くなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、売上は減少している。ただしパソコンの買換え需要が堅調で、全体的にはそれほど悪くはない。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・消費税増税後の状況は予想通りで、前年に比べてかなり悪い状況になっている。来客数が非常に悪く、販売にも影響が出ている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・4月から消費税増税の影響で来客数が減少している。それに合わせて販売量も減少し、今後どのようになるかがみえない状態である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・予想通り4月に入って販売量はかなり落ち込んでいる。目標を下方修正しても達成できない状況になっている。また、工場への在庫数も3月までに前倒しとなっているため、目標の7割に届くかどうかである。大変厳しい状況ではあるが、「悪い」と判断するほどまでは落ち込んでいない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・販売量には消費税増税の影響が出ているが、予想よりもマイナス幅は小さい。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・買い得な価格の商品や生活必需品を除いて、動きは良くない。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税により消費が低迷している。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・ここ1、2か月は閉店する店が増えている。知り合いの飲食店等でも客足が極端に落ちているとの話である。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・足元の販売量は落ち込んでいる。消費税増税の影響か、新年度となった事の影響によるのかはわからない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税直後の今月から来月にかけては少し悪くなっている。6月からの回復に期待したい。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・4月の消費税増税後、販売の動きがピタッと止まっている。回復には少し時間がかかる気がする。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
悪く なっている		タクシー運転手	お客様の様子	・4月からの消費税増税に伴い、当地のタクシー料金は、初乗り料金、メートル毎の事後料金ともに金額は変わらないが初乗りに係る距離が短くなっている。若干高くなったというイメージがあるようで、乗り控えが発生し客数は減少している。
		その他レジャー施設〔劇場〕(職員)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間の演目の入場券は、例年よりも販売数が減少している。
		理美容室(経営者)	来客数の動き	・段々と暖かくなって客が増える時期であるにもかかわらず、相変わらず客が来ない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・消費税増税によって料金が値上がりすると感じる客が非常に多く、来客数はかなり減少している。
		美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の3月にまとめ買いをした人が多いため、今月はやや悪くなっている。
		設計事務所(職員)	お客様の様子	・今月くらいまでは受注の話もあるが、来月以降は、見通しがつかない。
		その他住宅〔住宅管理〕(経営者)	単価の動き	・管理物件の契約件数は増加しているが、単価が上がらず利益確保も難しい状況が続いている。景気が上向いているという実感はまだない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・消費税増税の影響は深刻である。
		一般小売店〔酒類〕(経営者)	来客数の動き	・取引先の飲食店では週末でも客が半減している店が出てきている。週の初めは客がゼロの店やゼロに近い店が、引き続き増える傾向である。
		百貨店(経理担当)	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動による買い控えにより、売上は前年比10%以上落ち込んでいる。売上を構成する3つの要素(入店客数、購買客数、購買単価)のすべてが前年を割り込んでおり、なかでも購買単価の落ち込みが顕著である。
		百貨店(営業企画担当)	単価の動き	・消費税増税後、客からは日々の生活のなかで負担増を強く感じているとの声をよく聞く。来客数には変化がないが、買上点数、購買単価が大幅に低下している。
		百貨店(販売担当)	単価の動き	・消費税増税前には売上増加に大きく貢献した時計宝飾やインポートブランド、紳士関連商品が大きく落ち込み、客単価ダウンとなっている。一方、食品や婦人衣料のような増税前には駆け込み購入が少なかった商品は落ち込みも小さい。耐久財や長期的に使用する商品で単価が高いものほど落ち込みは大きく、食品など鮮度が重要な商品では単価が低く、全体として売上が伸びない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数は3か月前と比べて同じか、むしろ少し増加しているが、1人当たりの購買点数が減っているため、売上は減少傾向となっている。
		スーパー(店員)	来客数の動き	・大型店のオープンもあり、客の減少がみられる。消費税増税の影響で買上単価は低くなっている。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・消費税増税の影響か、来客数が回復しない。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・消費税増税前のたばこの買い置きによる反動で、4月中旬頃までは来客数、売上高ともに前年を大きく下回っている。
		乗用車販売店(経営者)	来客数の動き	・来客数が一気に減少している。これほどまで落ちるとは思わなかった。新車の話題も少ない。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・法人関係での車の購入はあるが、消費税増税の影響により個人からは全く商談が出ない状態である。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・販売量が悪くなるとは想定していたが、想定以上に悪い。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・消費税増税の影響もあり、例年でも販売台数が少ない4月が、前年を大幅に下回っている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新車販売台数は、前月までの受注残に助けられて何とか数字を残すことができたが、純受注台数は2割弱落ち込んでいる。新型車両が発表されたにもかかわらず、店頭には活気がない。
パチンコ店(経営者)	販売量の動き	・来客数の動きや単価の動きから、悪いと判断している。		
美容室(経営者)	お客様の様子	・客の年齢層が全体的に高齢化し、馴染み客が高齢者向け施設に入るなど来店できなくなり、新しい客が増えることもなく難しい状況である。		
理容室(経営者)	お客様の様子	・周りからは景気の良い話は出ない。相変わらず料金の安い店に客が流れている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		住宅販売会社 (経営者)	競争相手の様子	・広告を打っても客があまり来ない。駅周辺の物件は良いようで、地域によって格差がある。	
企業 動向 関連 (東海)	良く なっている	○	○	○	
	やや良く なっている	化学工業（総務 秘書）	それ以外	・多くの企業でベースアップが実施され、昇給率はリーマンショック前の水準に戻っているという報道や、過去最高益を出す企業がたくさんあるとの報道が、景気の上向き感を一層刺激する。消費税増税によって顕著に落ち込んだという報道も、あまり聞かない。	
		化学工業（人事 担当）	それ以外	・ホテル客室の稼働率がここ数年と比較して高くなっているそうである。特にビジネス客が増えているとのことである。	
		窯業・土石製品 製造業（社員）	受注量や販売量 の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で受注量が一気に減ることを心配したが、特段落ち込むこともなく、前年と同程度の受注量で推移している。客先の生産量も、3月ほどの勢いはないが特に落ち込んではいない。	
		鉄鋼業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・消費税の増税もあり、受注金額は伸びている。しかし、経費を控除した粗利は非常に圧迫されている。また、すぐ先の仕事の状況もみえないという客が多い。1～2か月先の仕事でも確保できている客は1割もいないような状況である。	
		電気機械器具製 造業（企画担 当）	受注量や販売量 の動き	・月ごとに変動はあるもの、緩やかに受注が伸びている。新製品の立ち上がりも順調で期待が持てる。	
		電気機械器具製 造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・依然として厳しい受注競争にはあるが、受注高は、3か月前あるいは前年と比較して上がってきている。	
		輸送業（エリア 担当）	受注量や販売量 の動き	・輸出、輸入貨物ともに増加している。	
		輸送業（エリア 担当）	受注価格や販売 価格の動き	・荷物1個当たりの輸送単価が上がってきている。	
		輸送業（エリア 担当）	受注量や販売量 の動き	・売上は、前年比マイナス0.2%とほぼ横ばいであるが、荷物の動きは良くなってきている。	
		会計事務所（社 会保険労務士）	それ以外	・6月中旬の海外旅行を申込んだが、既にキャンセル待ちか受付終了で空きを探すのに骨が折れた。旅行シーズンでもないのにこうした状況というのは、これまで旅行を我慢していた人々にも動きが出ていると感じる。また、不動産の売買の話も耳にするようになり、少しずつ景気が動き始めているように感じる。	
		変わらない	食料品製造業 (経営企画担 当)	それ以外	・消費税増税後、消費マインドの冷え込みは徐々に影響してくる気がする。食費など身の回りの消費についてはそれ程意識しないものの、高額品の買物については、より選択の目が厳しくなると思われる。自分自身の消費に関しても、削れるところはできるだけ節約しようと考えているようになっている。
			金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・仕事が減る時期ではあるが、例年に比べて落ち込みは少なく済みそうである。物件が動いている実感がある。一方、鋼材など原材料の値上げが止まらないので、収益的には厳しい。
			輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・4月第1週は、消費財の荷量が激減したが、2週目以降は前年並みで推移している。輸出入関連の荷動きは落ち込むことなく好調を維持している。
輸送業（エリア 担当）	それ以外		・4月に入った途端に、荷物の動きが前年を下回り、前々年並みにまで下がっている。消費税増税前の駆け込みの反動と思われるが、こうした動きは様々な業界で表れており、決して景気は上向きとはならず、ムードはむしろ湿っている感じである。		
通信会社（法人 営業担当）	それ以外		・消費税増税後の景気の落ち込みが心配である。政府も労働者も景気回復を目指してはいるが、貿易赤字の増大、消費者心理の冷え込み、公共料金等の値上げや年金支給額の減額といった不安材料がいっぱいである。		
金融業（従業 員）	取引先の様子		・消費税増税の影響で色々な業種ではまだ受注量が残っていて忙しい状況が続いているが、一部ではその動きも落ち着き、仕事量が減少している。業種によって違いが大きい。		
金融業（法人営 業担当）	取引先の様子		・取引先の自動車部品メーカーでは、4月以降も高い稼働率を維持している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・中小企業のオフィス仲介ではアベノミクスの効果もなく、売上は変わっていない。まだまだ景気は上昇基調にはない。	
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・消費税増税を前にした告知広告の受注は思ったよりも少なかったが、通常の広告も含めて減少しているということはない。	
		行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の荷動きは変わらない。	
		公認会計士	それ以外	・業種によっては消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動が見受けられるが、景気全体としては、大きな変化はないように見える。	
		経営コンサルタント	それ以外	・消費税増税による駆け込み需要は終了し、今のところの足踏み状態である。建築状況もあまり伸びてきておらず、地価水準としても伸びはみられない状況である。	
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・建設業では消費税増税前の駆け込み需要による繁忙状況から、増税後の落ち込みが大きい、他の業種に関しては想定内の影響のようである。	
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・4月以降、開発増員や新規案件のための外部調達依頼はなく、業況が良いとも悪いとも判断しづらいが、プロジェクトが立ち上がるのはこれからという時期であるため、多少安心感はある。	
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・4月に入っても生産量はそれほど落ちていない。ゴールデンウィークを控えた前倒し発注もあると思われるが、消費税増税による落ち込みは、それ程ないのではと考える。ただ、ガソリン価格が5円ほど上昇しており、影響が懸念される。	
やや悪くなっている		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で、受注量、販売量ともに5～6%程低下している。	
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月に入って受注量が減少している。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。	
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・取引先では、ETCの通勤割引がなくなったため、高速道路を利用して通勤する人が激減している。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響により、3月下旬からオーダー数が減少している。	
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンション、戸建住宅ともに売行きが止まっている。	
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・日経平均株価や円相場が横ばいで、少し前に比べると個人資産は増えていないことから、従来ほど投資や消費に向かって個人資金が動いていない。	
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要も終了し、不動産の動きが鈍化している。	
悪くなっている		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動による買い控えて購買が落ち込み、荷動きは前年同月を下回っている。しかし、落ち込み幅は小さく、今夏には前年実績を上回ると見込んでいる。一方、ガソリン価格は消費税増税分も含めて高止まりで、旅行やドライブ等が抑制されて観光業にはマイナスの影響が出るのではないかと思う。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・消費税増税を機に夕刊購読の中止が相次ぎ、夕刊の存続そのものが懸念される状況である。	
(東海)	雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・派遣業界においては4月は契約更改のため例年は稼働率が落ちるが、今年は稼働率の推移が堅調であるところから、景気は良い傾向にあると感じる。
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は明らかに増えており、企業の採用意欲は高まっている。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数は、ここしばらく連続して前年同月を下回っている。4月に入っても同じ状況で、前年比を5%程度下回る見込みである。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・求人数は前年度よりも更に増加する傾向にあり、大企業だけでなく中小企業にまで採用のすそ野が広がっている。	
変わらない		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人案件に対して求職者が不足している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・歓迎会向け派遣スタッフの利用が好調である。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・企業の求人数は前年比10%弱の増加で推移しており、3か月前と比較しても堅調に推移している。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・自動車生産に関しては、4月以降、消費税増税前の駆け込み需要の反動が予想されたが、新型車種で増税前の受注残があるため、それほど落ち込みはない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・飲食、サービス業以外の職種では、求人の動きに大きな変化はみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人申込件数は7,500件前後で、3か月前より4%増加しているが、求人数は15,000人で横ばい状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・速報値でみた新規求人倍率は、3月が1.44倍、4月は1.41倍とわずかに下がってはいるが、新規求人の動向としては、変わらない状況にある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者は減少し、事業主都合による離職者も減少している。一方で、求人数は、頭打ちからやや減少に転じている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・消費税増税後の買い控えは、予想したよりも少ない。業務上関係のある中小企業や金融機関からも、同様の声が聞かれている。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	それ以外	・ここ最近、自社や周りの企業の状況等には変化がない。
		やや悪くなっている		人材派遣会社（社員）
職業安定所（職員）	周辺企業の様子			・企業の話では、前月までは消費税増税前の駆け込み需要に対応して生産してきたが、今月に入って生産活動は縮小しているそうである。また、本体価格の引下げの動きがあり、収益が下がってしまうとのことである。
悪くなっている		—	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・4月に入り、消費税増税の悪影響が懸念されたが、売上の極端な落ち込みはみられず、観光客の増加などで今月の売上は前年同月上回っている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・消費税増税の影響は調味料などの買い置き品などでは一部みられたが、それ以外ではみられなかった。また、周辺の競合店が2店閉店したことで、売上が増加すると考えている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・雇用状況は売手市場が続いており、景気は上向きが続いていると考える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	単価の動き	・客は必要なもの、納得がいくものは買う。購買の決め手は安さではなく価値観に変わってきているようである。結果、客単価が上昇している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・3月は生活必需品の買い足しと、高額品の駆け込み購入の効果で販売量が大きく増加し、客単価が大きく上昇した。その結果、来客数、客単価、購入点数のすべてが前年同月上回った。4月に入ってからも消費税増税後の反動は全体を引き下げるまでには至っていない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・消費税増税の影響は軽微である。価格帯が少し上がったように感じられる。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の影響があると想定していたが、今のところあまり実感はない。客からはセット料金より安い価格での依頼もあり、サービスする機会が増えている。花見客の来店はほとんどなかったが企業OBの集まりが多く、4月の売上は前年同月比で15%増加した。ただし、4月後半の売上はあまり良くなかった。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（役員）	販売量の動き	・5月より通信の光化サービスを提供する予定で、必要な工事を進めるとともに、新規契約獲得活動を強化している。これは消費税増税の影響を受けないサービスであり、現在、前年同期を上回るペースで新規契約の獲得ができています。
		通信会社（役員）	お客様の様子	・上位コースへの変更やオプションサービスの追加の申込が徐々に増加している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・4月中旬から来客数が盛り返し、ほぼ前年同月に近くなっている。ただ、この半年間の来客数が非常に悪かったので、まだまだという印象である。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・3月末での物件の引き渡しは順調に終わり安堵している。しかし、例年の倍以上の完工が集中した結果、業者によっては今後手あき、待ち状態になる恐れがある。その解消は、新規来場者は低調であるが、受注、完工数確保に向けた差別化と中長期管理先の掘り起し、リフォーム工事などで対応できると考えている。
変わらない		一般小売店〔精肉〕（店長）	単価の動き	・客単価が低下してきているように思われる。消費税増税の影響が多少あるようである。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・消費税増税の影響も想定していたほどではなく、極端な買い控えは少ない。特に低価格な商材について節約するという意識は弱い。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣の競合店出店以来、売上は前年同月比を下回っており、改善の兆しが全くみえない。しかし、4月に限っては売上が想定ほど落ち込んでおらず、消費税増税の影響はあまり感じられなかった。
		衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要があったのは3月末の数日だけであった。消費税増税後も特に状況は変わらず推移している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・商品の売価は2月から外税にしている。消費税増税前の駆け込み需要もなかったため、増税後も大きな動きはない。
		一般レストラン（統括）	来客数の動き	・日常的に消費される食品関係について消費税増税後も大きな動きがみられない。特に国民食であるラーメン、カレーなどの食品は、飲食店、量販店ともに大きな動きがなく、その食材原料供給メーカーでも大きな動きはない。来客数への影響も小さい。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・消費税増税による売上減少を懸念していたが、来客数は前年同月並みである。ただし、ゴールデンウィークの日並びによる売上減少はあった。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・4月は前年同月比で売上110%、宿泊人数111%、宿泊単価103%となっている。15名以上の団体客数が117%、15名以下の個人客数も105%と引き続き好調であった。宿泊単価は低額な棟の売上が減少し、高額な棟の売上が増加したため、上昇した。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊は、外国人客数が前年同月比で約4倍と順調に伸びている。レストラン部門も消費税増税の影響を心配していたが、一部は戦略的に価格据置きしたものの、ある程度は価格転嫁ができた。一方、宴会は価格転嫁が難しく、質を落ととしても、前年並みの価格を求められ、結果、税引き後の単価は下落している。
		都市型ホテル（役員）	お客様の様子	・当社近隣の会館が免震工事のため2月末に閉館となり、従来当会館で催されていた催事、会合などによる当社の利用がなくなる。また消費税増税によりランチ客の若干の減少傾向があるが、ビジネス客やインバウンドの宿泊の増加などにより全体で売上は変わらない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税に伴い、高額商品購入の手控えがある。一定期間で解消すると考えているが、現状では引き続き売上が前年同月を下回っている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・4月に入り消費税増税の影響が少しあるのか、国内の団体客や個人客の動きは、前年同月と比較してやや鈍い状況である。その一方で、海外からのインバウンド客の動きは、前年同月を上回る状況で好調に推移している。全体としては、前年同期をやや下回る動きになっている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・イベントへの来場者数は戻りつつあるが、様子見の客が多く、具体的に検討している客が少ない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税増税の影響による客の目立った動きは見られない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税のためか、客は買い控えをしているようである。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・消費税増税後、客からの問い合わせが減り、商品の動きも鈍化し始めた。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響はそれほど大きいわけではないが、例年の新入学時期の繁忙期に比べると、販売量は減少している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人服フロアの売上は前年同月比88%であった。消費税増税後の買い控えの影響が大きい。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・全体的には、来客数は減少しているように感じる。必要とする商材の具体的なイメージを持って来店する客が多く、自分のイメージに合わないものは購入しないケースが多くなっている。無計画な買物をしないという気持ちを感じられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客の購入品の内容をみると、今月は消費税増税前の買い置き品である食品、雑貨、酒の販売量が低迷しており、購買がなかなか戻ってきていない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・消費税増税後、来客数が減少し、4月下旬になっても前年同月を下回っている。あと1～2か月間経過しないと来客数は増加しないと考えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・4月以降、消費税増税の影響もあって、来客数が大幅に減少しており、買上単価も低下している。目的買いが更に増えて、ついで買いが減っている。5月に入ると変化があるかもしれないが、現状は単価が低下している。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・消費税増税後、一般食料品及び日用雑貨の売上が全店で前年同月比90%の水準になった。消費者の購入マインドは冷え込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・衣料品においては、予想どおり大きな駆け込み需要はなかったが、その割には4月に入ってから客が買い控えをしているようである。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税増税の駆け込み需要の反動が予想以上に響いている。回復まで先が見えない状況である。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・販売と修理に関する来客数が、4月に入って明らかに減少した。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・消費税増税後、確実に売上、車検件数、来客数が減少している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・3月までの駆け込み需要の反動で市場が縮小している。当社でも3月中旬ごろから、受注のペースが落ち込んでいる。4～5月はゴールデンウィークで休日も多いため、商談に結びつけるのは若干厳しい状況である。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・4月の販売量は、前年同月比103%となった。平成26年1月の販売量が前年同月比140%であったことから、3か月前との比較では下向きの状況である。消費税増税の影響によるものと推察される。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税後の影響は顕著に表れている。集客は前年同期と比較して大きく落ち込むことはないが、特に必要なもの以外は購入を控える客が多く、単価は前年同期比で低下している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・安近短のイベントや無料のイベントには動きがあるが、それ以外は客の来店も問い合わせも止まっている。当然売上も減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・消費税増税により、極力タクシー利用を控えているように感じる。夜の繁華街への人出も減少している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・火力発電所の定期点検の送迎によって多少の動きはあったが、それ以外の病院の送迎などが減少している。
		通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・3月までは当業界ではキャッシュバックを実施しており、消費税増税前の駆け込み需要もあったため、その反動で4月は来客数が激減している。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月に入って繁華街にくる客の数が予想どおり激減している。平日は、歩行者も車もなく、閑散としている。いつになったら元の状況に戻るのか見通せない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・4月の売上は前年同月比で約2割減少している。日常的な食料品や雑貨などよりも、大型耐久消費財などの高額品の売上が落ち込んでおり、軒並み売上が前年同月比で3割減少している。商材によっては5割減少しているものもある。来客数はそれほど減少しておらず一時的な動きであると考えている。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・消費税増税後は販売量が極端に減少している状況である。これまでは、ポイントのプロモーションや商品の価格を出した販促を行えば販売量を回復できたが、4月はこれらに対する客の反応が全くなかった。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税により、売上は想定よりも大きく落ち込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今年4月の売上は催事などの要素を除くと前年同月比で15%低下している。また、3月と比較して、消費税増税の反動による影響が出ている。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・3月はやはり消費税増税前の需要が大きく、世間でも税率改正の話題が連日取り上げられていたこともあり、駆け込みムードのあおりが広がっていた。4月に入り、特に当社が扱う耐久消費財への影響は大きく、買換え需要の反動により一気に減速している状況である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・駆け込み需要がなかったことに加えて、4月の消費税増税以降、販売量が大きく減少しており、大変困難な状況である。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3月までの駆け込み需要の反動で新規契約が激減している。また6月からの新料金プラン提供に合わせての購入意思が強く、しばらく買い控えも発生すると考えられる。
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・4月からの入会者数が増えていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客は動いているが、契約に時間がかかり、結果に結び付く速度が遅い。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・北米、欧州からの工作機械の受注が前年同月比で伸びている。国内では金属光造形複合加工機が3Dプリンタとして注目を集めている。
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4～6月の受注量は前年同月比で5～6%増加している。状況は少しは前向きになりつつある。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事発注量が増加しており、受注価格競争が緩和され、受注量の増加と採算の改善につながっている。
		司法書士	取引先の様子	・北陸新幹線工事関連で事業の動きがある。また一般の建設業界でも退職した技術者、建築士などの資格者に復帰の要請があるほど人手不足とのことである。
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注量は前年同月比横ばいで推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・11～12月以降、消費税増税の影響で好調な受注が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部、消費税増税前の駆け込み需要や消費税増税後の反動などはあったが、全体的には比較的堅調に推移している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前の1月は雪が少なく、除雪作業はなかったが、年度末工期の工事の施行があり、人手が余るということはなかった。現在は官庁元請工事の受注が少ないことや前年度に受注した工事も本格着工できないなどで人手はやや余剰であるが、何とか凌いでいる。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・消費税増税の反動はあるが、落ち込みは想定内の範囲内であり、動向はまだ不鮮明な様子である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・小売について、消費税増税の反動が予想されていたが、予想の範囲内の減少にとどまっているようである。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の4月の売上は、想定していたほどは減少しなかった。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・4月の消費税増税から幾分販売量の減少がみられる。ただし、想定していたほどの落ち込みではなく、影響は小さい。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・欧州の暖冬の影響を受けて、主力のウィンタースポーツ関係の受注が前年同月を下回る状況となっており、受注面で苦労している。全体的にコストが上昇しており、単価についての改善が必要だが、単価交渉についても成果は限定的である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・4月からの消費税増税による買い控えにより、物量が減っている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の話では、法人関係の客があまりいないということである。また、不動産購入を検討している個人客も少ないということである。
	悪くなっている	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比3.1%増加した。そのうちサービス業においては、前年同月比6.9%増加した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体的に、求人数は前年同月と比較して増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人の件数が増加しない。求職者のスキルによってマッチング率に差がある。求職者も有期雇用に対して前向きではない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・4月からの消費税増税によって出費は増えても給料は上がらないので、サイドビジネスとして日雇派遣の求職者が増加傾向にある。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は3か月前と大きく変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・4月の求人広告売上は、前年同月比7割であった。全体としては3か月前とほとんど変わっていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・3か月前と比較すると、求人広告の件数は微増している。ただし、前月と比較すると減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加しているが、先行きの不透明感を心配する声も少し聞かれた。
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・求職者の正社員希望は変わらず、人材紹介、派遣ともに登録者が増えていない。登録者の高齢化が進むなかで、いかに即戦力人材を確保するかが課題になっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・特に求人数の状況に変化はない。
		やや悪くなっている	—	—
	悪くなっている	—	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が増加しており、電池交換や修理などの細かい注文が中心ではあるが、売上は安定している。ただし、近隣の同業者が高齢のため休業しており、その客がこちらへ回ってきていることは明らかであるため、景気が良くなったとはいえない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の後は落ち込むと予測していたが、逆に売上が伸びている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税後の買い控えはあまり感じられない。宝飾品、時計、特選雑貨などの高額品は落ち込んでいるが、衣料品の落ち込みは少なく、3～4月の合計では前年を上回っている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前月の消費税増税前の駆け込み需要の反動で、宝飾品などの高額品が落ち込んでいるものの、そのほかの身の回り品や食料品は回復が早い。毎年恒例の北海道物産展も、例年に劣らぬにぎわいをみせている。
		百貨店（店長）	単価の動き	・消費税増税が始まったが、想定内の売上減でとどまっている。入店数や顧客の購買単価も、予想したほどの落ち込みは感じられない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費税増税前の買いための影響は若干あるものの、景気が落ち込むイメージはない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新しい商品やサービスへの反応のほか、ちょっと良い商品に対する感度が上がってきている。安い商品への反応も変化し、いわゆる安物には動かなくなってきた。特に、良い商品が少し安くなると非常に反応が良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・3月下旬の駆け込み需要の反動から、予想よりも早い回復がみられる。消費は底堅さを示しており、当面は維持可能である。
		スーパー（社員）	お客様の様子	・消費税増税による影響はみられるが、店頭での客の購買は活発であり、売上も主力部門である生鮮食品を中心に堅調に推移している。増税による売上の減少は一時的なものと考えている。
		コンビニ（広告担当）	単価の動き	・年初と比較すると、若干上向き傾向の感覚がある。日々の消費がメインであるため、消費税増税の前も後も大きな変化はない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夜の団体利用客が連日多く来店している。思ったほど消費税増税の影響はない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・会社関係の客については、社内異動や転職などで入れ替わりが多く、新規顧客が増えてきている。消費税増税の開始に合わせてメニューの見直しや単価の変更を行ったため、不安定な部分もあったが、1か月が経過した最近では随分落ち着いてきている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月の来客数は前年比がほかの地区に比べて低かったが、客単価は健闘し、売上は前年をクリアした。4月はテレビ番組で取り上げられた影響もあり、来客数は前年を上回っている。
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・官庁や学校、法人関係の歓送迎会が集中する月であり、特に景気に左右される様子はない。単価も通常の宴会よりも高い水準で推移している。インバウンド客の利用も増加している。
		その他飲食 [コーヒーショップ]（店長）	販売量の動き	・消費税増税に伴い販売価格の見直しを行った結果、客足は減少したものの、現時点では想定範囲内に収まっている。一方、売上は単価上昇によって増税前を上回る結果となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊の好調は長く続いており、ここ最近では単価も徐々に上昇している。ビジネス客も活発であるが、中国、韓国からの団体客が大幅に増加し、単価も上がっている。一方、宴会部門では、定例の会合は確保できているが、新規受注が伸び悩み、苦戦が続いている。最近では周辺地区から都心部への企業の移転、撤退が増え、影響が出ている。
		旅行代理店（店長）	お客様の様子	・あまり値段にこだわらない客が多くなっている。ただし、現在は消費税率引き上げの影響もあり、旅行の申込はまだ様子見の客が多い。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・クルーズ商品がよく売れている。
		タクシー運転手 通信会社（経営者）	競争相手の様子 お客様の様子	・アベノミクス効果が続いている。 ・客の受注状況が改善しているほか、消費税増税前の駆け込み需要の好影響も続いている。パソコンの基本ソフトのサポート終了による需要も継続している。
		その他レジャー施設 [イベントホール]（職員）	来客数の動き	・近くの大規模スーパーマーケットに2週間連続で行ったが、過去に例がないほどの駐車台数で、空きスペースを探すのと、出庫するのに非常に時間がかかった。店内も大混雑で、消費税増税の影響による買い控えは感じられない。
	変わらない	一般小売店[菓子]（経営企画担当）	販売量の動き	・4月現在と1月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は4月が94.9%で、1月が102.0%、関東は4月が100.8%で、1月が99.9%、中部は4月が84.6%で、1月が94.0%、中国は4月が83.7%で、1月が101.6%となり、各地区合計の平均は4月が92.4%で、1月が99.9%となっている。1月時点では景気も上向きであったが、4月に入ってから消費税増税による落ち込みがみられる。ただし、地区によってバラつきがあり、特に関東、首都圏ではそれほど影響はないように見えるが、ほかの地区では影響が出ているように感じる。
		一般小売店[衣服]（経営者）	来客数の動き	・来客数は堅調であるが、相変わらず売上は悪い日が多い。
		一般小売店[衣服]（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後、懸念していたほどは来客数が落ち込んでいない。
		一般小売店[野菜]（店長）	お客様の様子	・消費税率が8%になり、良いものが売れるよりも、安いものが売れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・消費税増税の影響を受けて、百貨店は厳しい状況となっている。食料品のウエイトが高いため、影響を受けないと予想していたが、洋菓子や和菓子の売行きが厳しい。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は消費税増税の影響により、スーツなどの一部商品の動きが鈍い。ただし、施設が新規オープンしたこともあるが、4月も前年の約2.5倍の客が来店しており、増税前よりも好調なアイテムもある。また、一部の輸入品などの高額品には増税の影響はあまりみられず、予想したほど売上に対する影響は感じられない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・消費税増税前は、高額品を中心に売上は前年比で20～30%アップとなったが、バブル時に比べると消費者はやや冷静であった。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響は想定をやや上回り、商圈内への競合店の出店などもあり、総じてやや厳しい状況となっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要がみられた米や酒、紙、洗剤などは、販売量が減少したものの、生鮮3品やそうざいなどは相変わらず好調を維持している。消費税率が上がっても、客の買物内容からは、特にそれを意識しているようには感じられない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費税率が3%上がったが、今月の中ごろまでは客の反応があった。ゴールデンウィーク明けまでは、増税の感覚に慣れていない客の動きが続く。
		スーパー（広報担当）	それ以外	・消費税増税による駆け込み需要と反動減の影響が大きく、実際の景気動向を判断するのは難しい。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響で多少の売上減を予想していたが、たばこのまとめ買いの反動を除けば、来客数、客単価ともにほぼ変化しておらず、消費税増税の影響はほとんど感じられない。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・消費税増税による大きな変化は感じられない。
		衣料品専門店（販売担当）	単価の動き	・今のところは買い控えも少なく、変わらない状態である。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・消費税増税後は来客数が半減したほか、商品の買い渋りが目立つ。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響があるかと思っていたが、特に変わらない。
		乗用車販売店（営業企画）	お客様の様子	・例年は4月末から来客数が増加するが、今年はその傾向がみられない。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・消費税増税による売上減少を懸念していたが、実際に著しい落ち込みはなく、前月や前年同月と比べても、さほど売上に変化はない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・景気は変わらないか、もしくは下降傾向にある。消費税増税の影響は今のところあまり感じないが、ベースの売上自体が思わしくない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	お客様の様子	・家電や生活用品などは、消費税増税による価格変更の影響が出やすい一方、宝飾品などは、消費者の価値観と価格が一致すれば、買い渋りや購入の見送りといった動きはある程度回避できる。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が意外にある。小売部門は4月初旬、実績割れの日が続いた。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・4月に入り、顧客からの注文は想定以上の落ち込みとなっている。70代を中心とした顧客には消費税増税に加え、年金支給額の減少などもあり、早い段階での売上回復は見込みにくい状況である。
		一般レストラン（店員）	お客様の様子	・今月は異動の関係で客の入れ替わりがあった。数字的にはさほど悪くないが、客の動きが定着するまでには1か月程度かかる。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・前年比では若干落ちてはいるが、消費税増税の影響もそれほど感じられず、それなりに好調を維持している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・心配していた消費税増税の影響は、特にないよう感じる。出足が鈍ると予想したが、通常どおりの動きである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・4月初旬は花見で行楽客が多くみられたが、イベント当日は悪天候となったため、入場者が半減し、収益も伸びなかった。ただし、3か月前に比べると来客数が増えている分、客単価が若干上昇している。	
		観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・宿泊人員は依然として、前年比で90%台と低迷しているが、1人当たりの宿泊単価は下げ止まりつつある。1人当たりの消費単価も、前年の水準を何とか維持できている。	
		都市型ホテル（マネージャー）	来客数の動き	・宿泊部門では外国人観光客の増加が続いており、好調に推移している。宴会部門も前年を上回っている一方、食堂部門のほとんどの店舗では、売上が前年を割り込んでいる。近隣にオープンした施設の影響が大きいと思われるが、消費税増税による影響も否定できない。	
		都市型ホテル（客室担当）	単価の動き	・昨年から続く訪日外国人客の増加に伴い、宿泊の売上は前年比で107%と、稼働率、客室単価ともに前年を上回っている。	
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・4月上旬は昨年の80%程度の受付であり、消費税増税の影響を心配したものの、中旬になって急速に取り戻し、昨年並みとなりそうな状況である。予想どおり関東のテーマパークが前年比で2けたの落ち込みとなり、足を引っ張っているが、海外旅行がその分を補っている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税後の運賃上昇により、乗り控えが懸念されたが、ほとんど影響はない。	
		通信会社（社員）	販売量の動き	・消費税増税の問題が少し出始めている。例年は転居の多い時期で申込数も増加するが、大型テレビの需要が一時的にストップしつつある。ケーブルテレビの新規申込も前年比では減少傾向となっている。	
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・来場者数は若干減少している。消費税増税で支払金額はアップしたが、客からの反応に特に変化はなく、景気は大きく変わっていない。	
		パチンコ店（店員）	来客数の動き	・消費税増税後も大きな変化がない。	
		競艇場（職員）	単価の動き	・1人当たりの購買単価は、3か月前と比較しても差がない。	
		美容室（店員）	単価の動き	・特に変化はなく、パーマやカラーの客単価も落ちていない。	
		その他サービス 〔保険代理店〕 （経営者）	お客様の様子	・一部の国民は潤っているようであるが、全体的に消費を控えている様子がみられる。また、ガソリンの値上げの影響で節約を強いられている様子であり、景気がすぐに良くなることはない。	
		その他サービス 〔ビデオ・CD レンタル〕（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響はあまりみられず、今までどおりの前年割れ傾向が続いている。ただし、ブックカフェのカフェ売上は好調に推移している。	
		住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で、新築住宅を中心とした買い控えを予想していたが、購入助成金や住宅ローン控除の拡充などであまり影響がなく、販売量の変化は少ない。	
		住宅販売会社 （総務担当）	来客数の動き	・消費税増税以降は、展示場への来場者数が前年比で10%程度減少している。この状況はしばらく続く。	
		その他住宅投資 の動向を把握できる者 〔不動産仲介〕（経営者）	お客様の様子	・事業用の投資物件は、取引件数の増減があまりみられない。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・3月の反動により、前年比で20%ほど売上が減少している。
			一般小売店〔珈琲〕（経営者）	競争相手の様子	・同業者の廃業やM&Aの動きがみられる。
			一般小売店〔精肉〕（管理担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響というよりも、近隣のスーパーなどによるセール合戦の影響が出ているように感じる。消費税率が上がっているのに、安く感じるような価格が多く見受けられ、デフレ感が戻ってきている。
一般小売店〔花〕（店長）	来客数の動き		・消費税増税後、客足は少なくなっている。		
一般小売店〔雑貨〕（店長）	販売量の動き		・幹線道路が開通し、そこに競合他社が2軒オープンしてから、更に売上が落ち込んでいる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・3月はある程度の販売量となったが、今月は初旬から販売量が減少している。ぜいたく品やし好品を扱っているため、まだまだ厳しい状況が続く。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・中間価格帯の衣料品は、消費税増税前の駆け込み需要による売上増が少なかった割に、増税後の買い控えによる売上減はしっかりと影響を受けている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動が大きく、来客数は多いにもかかわらず、購入客数が前年を大きく下回っている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税後は、富裕層の優良顧客でも食品を除いて買上が減っている。高級ブランド品や美術品は引き合いも全くなく、10万円以上の商品の買上点数が非常に少なくなっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、消耗品を中心に影響が出ている。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みで、食品や衣料品も前年比で15%ほど売上が減少している。税抜き表示が増え、支払時に金額が大きく変わること、増税を実感している客が多い。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・先月までは、消費税増税前の駆け込み効果で高額商品を中心に好調であったが、今月は来客数に変化はないものの、手に商品を持っていない客が目立つなど、購買意欲の鈍化に苦戦している。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・消費税増税後の動きに関しては、月前半はやはり客の動きが一時落ち着いたものの、月後半になって購買意欲は少しずつ戻ってきた感覚がある。新商品、新イベントなどは好評であり、仕掛けに対する反応がみられる。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要は前回よりも多かったが、増税後の落ち込みは前回よりも小さい。ただし、12～13%は前年の売上を下回っている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。3月は好調に推移していた高級時計は1点も売れなかったため、全体の売上に影響が出ている。
		百貨店（売場マネージャー）	それ以外	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減はあるが、予想していたことであり、対策として特価品を増やしている。特価品はそれなりに動いているが、やはりオンシーズンでありながら定価品が苦戦している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税後は、来客数や買上点数が減少しているが、徐々に戻りつつある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・白物家電や消耗品、加工食品など、駆け込み需要が大きかった商品は反動減も大きく、回復が遅い。来客数も減少傾向が続いている。一方、駆け込み需要が少なかった商品は回復基調にある。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・消費税増税後の買い控えの影響で売上が減少している。特に、住居関連、衣料品、ドライ食品の減少が目立つ。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・消費税増税前と増税後を比べると、想定以上に駆け込み需要の反動減が大きくなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこの売上が、消費税増税の前よりも15%減少している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・消費税増税後、極端に悪くなったというほどではないが、たばこの買い控えなどが継続的に続いており、客単価がそれに引っ張られている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数は消費税増税で多少落ち込んでいるものの、予想したほど悪くない。前月に駆け込み需要がほとんどなかった分、落ち込みも少なくなっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後は若干の落ち込みがあり、販売量は減っている。ただし、客の景況感そのものに大きな変化はない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・3月までの忙しさがうそのように、仕事が暇になっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・消費税率の引き上げによって購入意欲が低下し、販売台数が減っている。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・受注数が消費税増税前と比べて大きく減少しており、来客数も少ない。
		住関連専門店（店員）	販売量の動き	・高価格帯の商品に絞って売上を確認すると、前年の約60%にまで落ち込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・4月1日に消費税が増税となることで、3月中旬以降に駆け込み需要が増えた。高価な物よりも、千円前後の生活必需品の買いだめが多く、それらの落ち込みは今も続いている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの予約状況が良くない。日並びが悪い影響もあるかもしれないが、来客数が昨年よりも落ちている。また、今年は海外旅行よりも近場の観光地が人気を集めそうであるが、その効果も少ない。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・4月からの消費税増税により景気に一服感があり、しばらくこの状況は続く。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・レストランの来客数が前年比で10%減っている。3月は前年比で増えていたが、4月に入り、料飲部門を中心に低迷している。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークは日並びも悪く、予約は前年を10%程度下回っている。消費税増税で3月に普段よりもお金を使った客が多く、その反動減も影響している。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・4月は為替や株価の変動による影響に加え、消費税増税の影響が一時的に出ている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・路上で空車が目立つようになるなど、客が財布のひもを締めている感覚がある。
		通信会社（企画担当）	単価の動き	・コインゲームが中心であり、消費税増税分が価格に転嫁しにくい業界であるため、大きな影響を受けている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・消費税増税の影響は思っていた以上にあると感じている。
		観光名所（経理担当）	来客数の動き	・当社のような集客施設は、消費税増税前の駆け込み需要の影響はそれほどなかったが、消費税増税後の消費者マインドの低下により、観光・レジャー産業全体が影響を受けている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・年度末を境に、客の反響や販売量が減少している。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・マンションデベロッパー各社は、この3月は完成在庫が非常に少なかったものの、未完成の販売中案件では集客が落ちてきている。一方、人気が高い案件は大量集客につながっているなど、二極化がみられる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・新築マンションのモデルルームへの来場者数は減少傾向となっている。消費税増税の影響ではなく、建築コストの上昇で販売価格の上昇が顕著になるなか、今が買い時という意識が低下してきている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・消費税増税前に買いだめの動きがあったため、今月は落ち込んでいる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・アパレル専門店は全体的に世間の動きと同じであるが、4月中旬以降は流行の商品が予想外に動き始めている。
		一般小売店〔花〕（店員）	お客様の様子	・消費税増税後、客の購買意欲が明らかに落ちており、追加で商品を買ってもらえなくなっている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・2月下旬からみられた消費税増税前の駆け込み需要により、3月は前年比で36%増と大きく売上を伸ばしたが、今月はその反動で売上は約15%減となる見通しである。外国人向けの売上は堅調な伸びが継続しているが、増税による悪影響はしばらく続く。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響が大きく、客には買い控えの動きがみられる。
		百貨店（服飾品担当）	来客数の動き	・3月の消費税率引上げ前の駆け込み需要による売上増の反動がかなり大きく出ている。特に、化粧品のような消耗品の売上は落ち込みがひどく、3月に伸びた分がそのまま減少している。また、同じく高額なアクセサリーも落ち込みが激しく、同じような状況となっている。
		百貨店（販促担当）	販売量の動き	・消費税増税が始まり、3月の駆け込み需要の反動が予想以上に出ている。特に、高額品や化粧品など、駆け込み需要の大きかった商材は反動減が大きい。当然、来客数にも多少の影響が出ており、月前半は駆け込み需要がなかった商材にも、買い控えの雰囲気の一部でみられた。一方、食品に関しては影響がほぼなく、堅調に推移している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費税増税前はまとめ買いが多少あったが、都市部ほどは多くなかったため、落ち込みも小さい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税の直後ということもあり、売上全体としては前年比で1割以上悪化している。生鮮食品はほぼ戻ってきたものの、加工食品、日用消耗品、家電、寝具、衣料品は2割前後の減少率であり、商品別に異なるものの、厳しい状況となっている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・レジ客数は前年比で80%と、想像以上に持ちこたえているが、冷蔵庫、エアコンなどの販売台数が伸びず、単価も低い。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・予測していたとはいえ、やはり消費税増税の影響が出ており、来客数が土日も前年比で激減している。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響は想像以上であり、4月の売上は前月の70%程度に落ち込んでいる。
		乗用車販売店（営業担当）	それ以外	・消費税増税前の駆け込み需要は、新車、中古車の販売だけではなく、点検や車検、修理などにも大きな動きがあった。反動減は過去にあったエコカー補助金以上の規模であり、予想していたとおり、すべての指標が大きく悪化している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響により、来客数が極端に減っている。
		その他専門店「宝石」（経営者）	お客様の様子	・4月から消費税率が8%に上がったのを機に、来客数や客単価が悪化した。この傾向は当分続く。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,633円と、3か月前の10,603円から消費税増税の影響で下がっている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・3月の反動で4月の売上は過去最低となったが、想定範囲内にとどまっている。
		その他住宅「展示場」（従業員）	来客数の動き	・4月の住宅展示場への来場数は、前年比で2割程度落ち込んでいる。
企業動向関連（近畿）	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税による駆け込み需要が多少あり、今月の荷動きは悪くなると考えていたが、予想したほどではない。業務用の商品で1か月ぐらいの在庫分を増税前に購入した顧客もあったが、20日過ぎには新たな発注も入ってきた。意外にほかの商品の荷動きも良くなっている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月は時期的に最悪であったため、その比較では良くなっているが、内容をみると力強さは感じられない。必要な分を必要なだけ購入するスタイルは変わらない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・国内企業からの引き合いが増加傾向にある。
		金融業「投資運用業」（代表）	それ以外	・26年3月期の各企業の決算が好調である。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告に対する抵抗がなくなっており、検討してから決断までの時間が短くなっている。
		その他非製造業「商社」（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の受注量と比べても、さほど変化はない。消費税増税で若干受注量が落ち込むかと思われたが、3月には駆け込み受注もなかったため、大きな変化は感じられない。
		変わらない	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子
食料品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き		・4月に入っても前年と同様の受注量となっている。	
繊維工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き		・大きな変化はないが、原材料費や加工賃の値上げが進んでいる。販売価格には転嫁しにくい状況であるが、今後の転嫁の動向次第で、先行きの状況が変わる。	
パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き		・3月末は消費税増税の関係で、1日当たりの受注量が増加したが、その後も大きな変化はない。	
化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き		・消費税増税が実施されても、販売量の減少がみられない。	
窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き		・当社には駆け込み需要の反動減による影響はなかったが、業界全体には出ている。	
金属製品製造業（経営者）	取引先の様子		・消費税増税の影響で、多少は荷動きが鈍化しているものの、予想していたほどの落ち込みはない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金属製品製造業 (管理担当)	受注量や販売量の動き	・予定していた大型物件が秋ごろまで延期となったため、厳しい状況である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・国内での新製品の開発や技術革新、品質向上に関する動きが活発になっている。海外市場でも同様の動きがみられるため、今後の動向に期待している。ただし、業績の改善に結びつけるためには、強い自助努力を要するほか、成果に結びつくまでには時間がかかりそうである。悪い物価上昇や人件費の上昇による悪影響も心配である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・製造業では、国内の設備増強には消極的である一方、外国を市場としている場合は、現地での設備投資を検討している。
		その他製造業 [事務用品] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響はほとんどなく、大きな変化はない。
		建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・3月末までが納期の工事が終了した後、2週間程度は受注が落ち着いたが、それ以降は再び増えつつある。
		建設業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税に伴って増えていた、3月末完成工事も一段落している。工事量は増えたが、技能労務者不足や建設資材高騰、製品不足のために工事内容は厳しく、完成させるための苦労が多い。
		建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響は今のところ感じられない。
		通信業 (管理担当)	取引先の様子	・特に、良いとも悪いとも感じない。
		金融業 (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・消費税率の引上げによる駆け込み受注の反動減で、一時的に落ち込んでいる。
		不動産業 (営業担当)	取引先の様子	・神戸から事業所が減少している状況に変化はない。それに伴って事務所の需要が減っているほか、社宅も減少するなど、景気は良くない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・関西では特に家電関連の顧客が多く、消費税増税の影響で現状維持となっている。
		コピーサービス業 (店長)	受注量や販売量の動き	・案件数に増減の変化はないが、消費税増税後ということを考えれば、順調とも感じられる。
		その他サービス [自動車修理] (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・ゴールデンウィーク前でもバタバタした動きがない。
		その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	受注量や販売量の動き	・4月からの消費税増税で、受注量が極めて少なくなり、売上は前年割れとなっている。
		やや悪くなっている		繊維工業 (団体職員)
出版・印刷・同 関連産業 (情報 企画担当)	受注量や販売量の動き			・産業別にみると、住宅関連ではマンションの販促物が動いている。その一方、弱電業界は円安効果で収益が改善しているものの、メーカーの販促物は依然として動きがなく、動いているのは量販店ぐらいである。医療業界では、医療事故の防止対策や安全性に対するマニュアルの整備、防災対策関連の動きが活発である。
金属製品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き			・4月に入ってから、受注量が少し減少している。
一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き			・当社の売上は原子力発電関連の設備投資に大きく依存しているが、この市場は動きが止まっている。各社は原子力発電技術を生かす方法を模索しているが、市場の転換はすぐには進まない。このため、設備投資の計画が遅れている。
電気機械器具製造業 (企画担当)	受注量や販売量の動き			・想定はしていたが、3月の駆け込み需要の反動で、受注量が前年と比べて確実に10～20%減少している。
電気機械器具製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き			・受注が落ち込んでいる。
電気機械器具製造業 (宣伝担当)	受注量や販売量の動き			・予想どおりに消費税増税の悪影響が出ており、荷動きが鈍化している。量販店への客足も遠のいている。
輸送業 (商品管理担当)	取引先の様子			・消費税増税の関係で単価が高くなり、販売量は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・今月の配達は3月末の売上分もあったため、昨年と同じぐらいであったが、4月に入ってからの売上は明らかに落ち込んでいる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・4月からの価格改定を機に、朝夕刊をセットで購読していた読者が、夕刊を止めて、朝刊だけの購読に切り替える動きが増えている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・クライアントのスーパーの店頭では、目立った買い控えは発生していない。買いだめ商品の消費が終わるまでの間、買物量が減っているという感じである。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前には、駆け込み需要とまではいえないが、多少のまとめ買いがみられた影響で、特にたばこの売上が前年の88%に落ち込んでいる。そのほかの食品（菓子やドリンク類）には大きな落ち込みはなかったものの、総じて前年割れとなっている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年4月は期初のため、全体的な動きの鈍さはあるが、今年は更に消費税増税もあり、特に受注状況が悪い。
悪くなっている		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が思った以上に大きく、売上が前年比で2～3割減少している。また、問い合わせの電話も少ないなど、駆け込み需要の反動はもうしばらく続く。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響のほか、年度初めでもあり、広告出稿の動きが非常に悪い。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響が出ている。
雇用関連 (近畿)	良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・現在の求人数は、求人誌をみても分かるように、かなり増えてきている。その一方、求職者の動きは鈍く、例年よりも定職についている人や、年度末に契約を更新した人も多いことから、景気は上向きになっていると判断される。
		アウトソーシング企業（営業担当）	求人数の動き	・各社のIT投資が増えており、システムインテグレータの採用も始まっているため、求人数が増えている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・毎年4月は落ち込みが激しいが、今年に限っては大きな落ち込みはない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設労働者不足の影響のほか、建設部門の求人が落ち込む季節であることを考慮しても、日雇い求人の減少幅は小さい。
		民間職業紹介機関（大学担当）	採用者数の動き	・昨年よりも採用環境は良くなっている。4月1日の内定率も昨年から4.1ポイント上昇し、23.7%という数字が出ている。
変わらない		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・非常に難しい状況になっている。中小企業の経営者は雇用に関して慎重であり、ここへきて流通関係も止まったような気がする。
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・前年よりも求職者数の減少幅は縮小しているなど、求職状態にある人が多くなっている。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・消費税増税が始まったが、今は税抜き価格で表示されているのでピンとこないものの、やはりこの増税は厳しい。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告数は、相変わらず増えも減りもせず、こう着状態が続いている。ここ数か月、明らかな方向性の変化はなく、3か月前からの変化も感じられない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・阿倍野地区での商業施設の開業効果で、求人数に良い影響が出ている。飲食店をはじめとする求人募集が増え、現場をみても新しい顔ぶれが目につく。肝心なのはこの効果が継続することであり、そのためには大型プロジェクトが常に新しい情報を発信しながら、売上を確保することが求められる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の4月の動きについては、製造業、建設業を中心に増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・この1年は増加傾向にあった新規求人数が、前年比で6.0%減少となった。業種によってばらつきがあり、製造業は好調で33.2%増加となったが、小売業は消費税増税の影響を警戒したのか、41.9%減となっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・一時的な景気回復の動きが進んでいるためか、新規求職者は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職担当)	採用者数の動き	・採用者数の増減は会社によって様々であるため、一概に上向きとはとらえられない。
		学校〔大学〕 (就職担当)	周辺企業の様子	・大阪港での東南アジア向けコンテナ船の動きは活発になっているが、船舶の大きさが中小規模になったように感じる。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (役員)	求職者数の動き	・人材派遣業界では、企業の求人数が昨年の後半に比べると減少している。
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	周辺企業の様子	・新聞広告をみると、4月下旬になって、特に高額商品の広告は動きが鈍くなっている。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・消費税増税の影響でやや景気が悪くなっている。新聞広告の推移も、地元企業からの出稿が少ない。ただし、これは一時的な悪化であると考えられる。
	悪く なっている	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が、前年や前月と比べて減少している。特に、卸・小売や運輸、飲食サービス業で減少がみられる。
—		—	—	

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	スーパー（管理 担当）	来客数の動き	・売上と来客数はともに、微増ではあるが前年を上回っている。
		コンビニ（副地 域ブロック長）	販売量の動き	・駆け込み需要の反動は小さく、早い段階で景気は回復傾向にある。
		その他小売 〔ショッピング センター〕（運 営担当）	来客数の動き	・4月は駆け込み需要の反動を懸念したが、そこまで大きな影響は実感していない。4月前半の売上減は週末の悪天候による印象が強く、天候が回復してきた月後半は堅調に推移している。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・レストランの来客数が増え、客単価も上昇している。これは、もともと客単価が低かったため、適正になったといえるかもしれない。
		ゴルフ場（営業 担当）	お客様の様子	・来場者数は伸びていないが、客の仕事が忙しくなりコンペを組めず延期するなど、来場者数の増減とは違う意味で景気が良くなっていると感じる。
	変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・3月の駆け込み需要の反動から、売上と来客数はともに減少している。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・観光シーズンで観光客数は増加しているが、客の財布のひもは固い。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・3月の駆け込み需要の反動で、4月の売上は良くない。
		一般小売店〔酒 店〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響を心配していたが、取引先の企業努力もあってか、当店の売上にそれほど大きな落ち込みはない。駆け込み購入した商品も順調に消費され、今は新しい商品を納入している。ただ、景気は良くない。
		一般小売店〔食 品〕（経営者）	お客様の様子	・客の買上点数が減少している。当店の客は高齢者が多く、特売品だけを狙う客も多い。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・駆け込み需要の反動減の状況が続き、販売点数が回復しない。
		スーパー（業務 開発担当）	販売量の動き	・販売数量の落ち込みは2～3%と消費税増税前の伸びに比べて反動は小さく、徐々に回復している。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響は特になく、売上は変わらない。
		家電量販店（販 売担当）	来客数の動き	・駆け込み需要の反動が出ている。
		その他専門店 〔時計〕（経営 者）	来客数の動き	・3月は駆け込み需要があったが、4月は以前の動きに戻った。高額品販売業であるので、消費には個人格差があると感じる。
		その他専門店 〔海産物〕（経 営者）	来客数の動き	・今年に入って来客数の減少傾向が続いている。
		一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・消費税増税後に、予想したほど景気に変化はなかった。
		一般レストラン （店長）	お客様の様子	・消費税増税前と比べても予約数は減少しておらず、来客数も前年並みで推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン(外食事業担当)	単価の動き	・夜の来客数は減少しているが、入学式や歓迎会などがあって全体の来客数は例年並みであった。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響で多少変化があると思われたが、ほとんど変化がなく通常どおり動いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の歓楽街の客が減少し続けている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・消費税増税の影響はなく、売上は横ばいである。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・駆け込み需要の恩恵を受けず消費税増税を迎えたので、当社では増税による月額支払料金アップのマイナス影響は目立っていない。
		通信会社(広報担当)	販売量の動き	・年度末商戦が終われば、販売数はほぼ例年どおりとなり、特に景気が上向いていると感じない。
		テーマパーク(管理担当)	来客数の動き	・来客数や売上はともに前年と比較して変動がない。
		テーマパーク(営業担当)	来客数の動き	・消費税増税で景気は落ち込むかと思っていたが、今のところ変化はない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・3～4月前半は来客数が増加したが、月後半からは減少し、例年並みになった。
		美容室(経営者)	単価の動き	・消費税増税後も客の様子に変化はない。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・消費税増税に伴う客の動きは一服した。ただ、駆け込み需要による受注を消化している状況は現在も継続している。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・消費税増税が実施されたが、消費動向がみえない。地方経済はいまだ厳しい状況が変わらない。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・消費税増税後も、住宅・非住宅の建築に関わる引き合いが順調に続いている。
		住宅販売会社(販売担当)	来客数の動き	・4月になり物件の問い合わせは増えたが、販売状況は通常と変わらない。
	やや悪くなっている	商店街(理事)	販売量の動き	・駆け込み需要がそれほどなかったので反動減も小さかったが、客は購買行動に慎重になっている。
		商店街(代表者)	単価の動き	・客の財布のひもは固い。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・季節的には繁忙期であるはずだが売上が伸びてこない。やはり消費税増税の影響が少なからずある。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・3月に売上が好調であった店ほど、来客数と売上が大変厳しい状況である。
		一般小売店[茶](経営者)	販売量の動き	・3月は駆け込み需要で売上が伸び、4月は反動で売上が非常に下がっている。営業もあきらめ顔である。
		一般小売店[印章](経営者)	来客数の動き	・客は3月に駆け込み購入しているので、4月の売上は悪い。
		一般小売店[紙類](経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響で客の買い控え傾向が強くなっている。
		百貨店(経理担当)	来客数の動き	・3月の駆け込み需要の反動が出ている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・3月までは、売上が前年比で100%を超えている店舗が5割程度あったが、4月は消費税増税の実施もあり、100%を超える店舗は約3割となっている。テナントの店長も、4月当初はさっぱり客が来なかったと言っている。
百貨店(営業担当)	単価の動き	・来客数は増えているが、客単価は落ち込んでいる。		
百貨店(営業担当)	販売量の動き	・消費税増税前の3月が好調であったので、4月の落ち込みは想定していたが、予想以上に厳しい。客単価は前年比95%とあまり落ちていないが、販売数は80%と大きく前年を下回り、増税後の買い控えが顕著に表れている。		
百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・来客数は消費税増税後も前年並みであるが、化粧品や宝飾品など、3月に大きく売上を伸ばした売場の落ち込みが顕著である。駅ビルや郊外ショッピングセンターのリニューアルの影響も加わり、想定以上のマイナスが続いている。また売上が伸びなかった衣料品は、夏物が本格展開となっても、購入単価の落ち込みが大きい。		
百貨店(売場担当)	お客様の様子	・3月の売上は化粧品や宝飾品を中心に近年まれにみる大幅増であったが、4月は予想以上の減少で推移している。前月180%増を記録した化粧品は、4月中盤以降も売上が戻ってくる気配がない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・売上は厳しい状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数と客単価はともに落ちている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3月の来客数は前年の102%で推移していたが、消費税増税の影響で4月の来客数は前年の97%に落ち込んでいる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が駆け込み需要の反動で減少した。特に酒、たばこや日用雑貨の売上が低下している。また来店回数が減少し、日用品の買上げ点数も減少している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数と販売金額がともに前年を割っている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費税増税後は、客の購買意欲が落ちている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子に、明らかに消費税増税の影響がみてとれる。来客数や販売量といった数字にも如実に表れているが、当初予測していた程の落ち込みはない。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・3月は駆け込み需要で売上が伸びたが、4月は買い控えが目立つ。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこを購入する客が減少した。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・駆け込み需要で売上が良かったたばこなどは、客は買い控える傾向で販売量も減少傾向である。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・京都の卸問屋では、展示会などの集客に苦労している。当店は3月より4月の方が売上が良かったが、それは客とのタイミングが合っただけで、厳しい状態は続いている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響が出ている。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響で売上が2割ほど下がった。客の購買行動は慎重になっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	単価の動き	・3月は駆け込み需要で客単価が大きく伸び、売上を押し上げた。4月は来客数が前年より5%減少で納まっているが、売上は10%も落ちた。特に住関連商品や日用雑貨品で客単価の下落が顕著である。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月まで来客数は前年並みで推移していたが、消費税増税後の4月は減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・外食利用の来客数が減少傾向である。ゴールデンウィークを見据えた動きともとれるが、全体の節約ムードの影響が大きい。
		観光型ホテル（宿泊予約担当）	来客数の動き	・団体客数と個人客数はともに減少し、先行受注も伸び悩む状況になっている。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・消費税増税後の一時的な消費行動の抑制は想定範囲内であったが、ホテルではレストランの来客数が顕著に減少している。ただ法人企業の利用については、定例の受注を前年並みに受注している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・海外からの来客数が増加して宿泊は順調であるが、駆け込み需要の反動で婚礼件数とレストラン利用客数が大幅に減少している。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・消費税増税の影響かは不明であるが、飲食関係の客の出足が鈍い。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響が考えられる。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・1月が正月レースで収益を確保できたのに比べると、4月の売上は悪い。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	お客様の様子	・3月は駆け込み需要で高価格品を買うという景気のいい話をよく聞いたが、4月はそういう話は一切ない。客との会話では、消費税増税に伴う今後の不安を聞く。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後は、客からの問い合わせが減った。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・4月から消費税が増税され駆け込み需要が終わり、客の購買行動が慎重になっている。
	悪くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来客数にあまり変化はないが、客の買上点数が落ちている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・販売量は各売場を平均すると前年比85%まで落ち込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・予想よりも厳しく、宝飾品、美術品や衣料品関係の売上は、大幅に落ちている。それを補うためポイントアップセール、無金利販売や物産展などを仕掛けたが、売上は大きなマイナスで打撃の大きな月であった。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・3月の駆け込み需要の反動や節約のため、客の買上点数が減少しており、売上が3%程度落ちた。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・消費税増税の影響で、スーツや礼服を購入する客が大幅に減少した。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売量が減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税増税後は冷蔵庫、洗濯機、エアコンやテレビなど、売上構成比の高い商品の動きが鈍ってきている。駆け込み需要の反動が明らかである。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・消費税増税前には、来客数と売上は前年の150%で推移していたが、増税後の4月は来客数が前年の70%、売上が80%になっている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年の8割程度で、駆け込み需要の反動が出ている。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月の販売量は駆け込み需要の反動により前年の60%と大変厳しい。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・3月は駆け込み需要で販売量がピークであったが、4月は先月の40%の販売量で推移している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・駆け込み需要の反動で4月は全く販売が伸びない。3月と4月の売上を足して2で割っても、前年より売上が悪い。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・4月に入って来客数は減少した。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	来客数の動き	・4月に入り、平日だけでなく土日や祝日の来客数も減少している。チラシで宣伝しポイント数をサービスしても、あまり効果はない。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	来客数の動き	・4月に入り来客数が極端に減少した。飲食や買物でも客はあまり金を使わない。
		観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・消費税増税後は、宿泊、料飲や宴会部門すべてで、売上が前年を大きく下回っている。特にレストランでは来客数が減少しており、客が外食を控えている様子がうかがえる。
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車製造業は好調で、当社も多忙である。
(中国)	やや良くなっている	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車用高機能樹脂向け原料の受注量が回復基調にある。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・製造業では円安による原燃料や電力料金上昇分の販売価格への転嫁が進んでいないが、セメント等の販売数量が若干増加しており、景気は全体的には上向きである。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後も引き続き、商談件数は増加し契約件数も増加しているが、受注単価はまだまだ厳しい。販売量は全体をとおして増加傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	取引先の様子	・国内造船各社の順調な新規受注に期待している。船価の問題はあるが、造船不況以降落ちていた建造ペースが、少しずつ元に戻りつつある。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注の引き合いが増えた。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・駆け込み需要の反動は最小限であった。電子商取引市場が成長を続け、企業間の物流の動きが多頻度・小ロット化しており、市場は拡大傾向にある。
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの受注は、低燃費車の輸出好調により前年水準を上回っている。原価低減などのコスト改善で収益は前年を上回り、過去最高益となる企業も多い。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響に苦しむクライアントもあるが、多様な販売促進企画を展開して売上を増加させようとする企業があるため、当社の受注量が増加している。
変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後も売上に変化はない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・特に大きな変動がなく、受注量と販売量はともに変化がない。		
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税直後で方向性が読みにくい。		
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量は低水準が続いている。閑散な部門と繁忙な部門が混在した状態が続いている。		
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・自動車の生産台数は先月計画から上方修正となっていることや、建築関連も一時の様子見から再び堅調に荷動きし始めていることなど、消費税増税後に懸念された反動減は想定よりも小さい。		
		非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・特に大きな変化はみられない。		
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・過去3か月と同水準で推移しており、大きな変化はない。		
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・予定どおりの受注量を確保できている。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年4月は建設業にとって受注量が伸びない時期であるが、駆け込み需要のおかげで仕事が確保できている。		
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・技術職員や施工業者の人材不足は慢性化し、資機材は高騰しており、景気は下降しつつある。		
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響はあまりみられず、受注高も例月どおりであった。		
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・4月には消費税増税の影響が出ると思っていたが、それほど大きな影響はない。建設業や製造業も、慌ただしい時期は過ぎたが、まだ忙しさの余韻が残っており、落ち着いた状態にはなっていない。		
		やや悪くなっている		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料等のコストが上昇している。また海外仕入価格も為替とあいまって上昇し、利益を圧迫しつつある。
				輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3月は年度末で荷動きが活発であったが、4月に入り鈍くなっている。
通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き			・4月に入り、客からの情報通信関連の引き合いが3か月前と比較して減少している。		
金融業（貸付担当）	取引先の様子			・小売業からは4月に入ってから販売数量が落ちている、運送業からは3月は忙しかったが、4月は物流量が減ったなどの報告を受けている。取引先の様子からみると景気はやや悪くなっている。		
不動産業（総務担当）	それ以外			・賃貸物件の需要時期が過ぎ、成約件数が減少している。		
悪くなっている		農林水産業（従業者）	それ以外	・3月と3か月前の12月を比較すると、水揚げ数量は365t、水揚げ金額は1億5,370万円の減少であった。3月単月の前年比では、水揚げ数量は127t増加し前年の108.8%、水揚げ金額は1億200万円増加し前年の134%であった。		
雇用関連 (中国)	良くなっている	人材派遣会社（経営企画担当）	求人数の動き	・建設中の大型商業施設と病院の新築・増改築の影響が大きく、ゼネコン及び下請企業は繁忙である。学校やビルなどの耐震工事も控えるため、今後3年間は忙しさが続き、それに伴い当社への人材ニーズもある。		
	やや良くなっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・自動車業界、福祉業界や建設業界といった特定の業種だけでなく、幅広い業種から多数の求人が発生している。		
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	求人数の動き	・新卒採用を新たに検討する企業が増えている。また、企業ごとの採用数も増加傾向にある。		
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数は増加を続ける一方、新規求職者数は減少を続けていることから、有効求人倍率は高い水準にある。		
		職業安定所（産業雇用情報担当）	求職者数の動き	・新規求職者数と月間有効求職者数はともに連続で前年を下回っている。新規求職者の内訳をみると、契約満了で退職した派遣社員や事業閉鎖に伴う離職者がみられる。また、45歳から54歳の年齢層が前年より増加している。		
変わらない		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・採用ピークの4月が終了するので、いったん求人の動きは落ち着いたように感じる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・消費税増税の影響が出ている。企業が追加予算を組んで求人活動することに二の足を踏んでいる様子がうかがえる。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	求職者数の動き	・3月ということで新規求職者数が75.9%と大幅に増加し、新規求人者数は3か月前と比べて16.4%増加した。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・依然として企業の採用意欲は高いものの、一時期ほどの伸びはなく落ち着いてきている。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	求人数の動き	・特に目立つ変化は感じられない。
		その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	求人数の動き	・求人は、遺跡発掘作業の大量募集のあった建設業、大手企業の新たな事業所開設のあった運輸業、新規オープンした全国チェーンのレストランがあった飲食サービス業などで大幅増となっている。有効求人倍率も6か月連続して0.9倍台をキープしたものの、前月比では低下しており一服感がみられる。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・明らかに消費税増税の影響で景気は悪くなっている。しかし、大型商業施設や複数の大型病院建設が継続中であるため、求人はあまり落ちてはいない。
	悪くなっている	—	—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・予想に反し、4月は全体的に良かった。消費税増税前の駆け込み需要がなかったせいなのか、少し安心している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・建築関係のお客様は多忙で、食事に出る暇もない様子。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・ここ数カ月続いているお客様の引き合いが若干衰えた感じもするが、傾向としては良くなっている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・天候が良かったので来場者は若干増えつつある。予約状況も良い。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要はみられなかった。一方、増税後の販売量の落ち込みは小さく、消費者マインドの悪化はなかった。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が大きかった商品の反動減が大きく、しばらくは落ち込みが続く。ただ、全体としての消費マインドは萎縮していない。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要がなかったため、反動減もない。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・消費増税の影響で客単価や買上点数の減少がみられる。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・売上は前年比で5ポイント増えたが、前月比では2ポイント減少している。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・4月は売上、来店客数共に今一つ。消費税増税の駆け込みの反動か、初旬の落ち込みがやや大きく、その後も改善されていない。
		その他飲食〔ファストフード〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響はさほど無かった。
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・4月は予想していたほど落ち込まず、売上等は前年と変わらない。客の様子では、消費税増税はあまり気にしていないように見える。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の影響は無かったものの、厳しい状況が続いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響は無かった。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・これまで内税であったものが、増税分3%の上乗せでなく、8%プラスする傾向が多く見受けられる。将来、消費税が10%になった時には、おそらくポディーブローのように消費動向に響いてくるだろう。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・消費税を含めた予算で注文される客が多く、1人あたりの単価が下がった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、加工食品など保存のきく商品の売上が前年と比べ、数パーセント落ちている。買い置きによる来店数減少の影響が大きい。
		スーパー（統括担当）	販売量の動き	・外食から家での食事にシフトしているのか、肉や魚が売れている。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減がある。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売量が3月までと比べ半分程度まで落ちている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要がみられた化粧品、日用品に反動減が生じている。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響で、団体旅行も個人旅行も申込みが減少した。
		タクシー運転手	来客数の動き	・四国霊場開創1200年にあたる今年はお遍路の客が増えており、私個人の4月の売上は上昇している。しかし、今月からタクシー料金を値上げしたことで乗車する人が減り、業界全体は落ち込んでいる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・「消費税が上昇したから」という声が多く聞こえた。初乗りを20円値上げした影響で、水揚げ等が下落している。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税に加え、新機種発売前のため市場の動きが鈍化している。	
	悪くなっている	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・消費税率が上がって景気が良くなるわけがない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・消費税増税後、さっぱり商品が動かなくなった。同業者も卸問屋も口を揃えて言う。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税の反動で、衣料品を含めて大きく影響が出ている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・消費税増税の影響で売上は落ちたが、想定していたほど悪くない見込み。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のあった商品部門に落ち込みがあった。
		コンビニ（総務）	単価の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の影響を顕著に受け、4月は客単価が約10%もダウンしている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・消費税増税が影響している。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税後は今までにないくらい落ち込んでおり、非常に厳しい。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、新車の受注は大幅に減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・想定していたが、消費税増税後は極端に販売量が落ち込み、例年の半分ほどの実績となった。従来の状態に戻るまでどれくらいかかるか不安。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税率引上げの反動で、4月の新車受注は激減している。
乗用車販売店（営業担当）		販売量の動き	・2月と3月の受注残があったので登録（届出）台数は前年比15%の減少にとどまったが、受注台数では半減した。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・消費税増税の反動が非常に大きく、苦戦している。		
競艇場（職員）	販売量の動き	・4月は大きなレースもなく、前月比・3か月前比・前年比ともに減少した。前月比、3か月前比は10%以上の大幅減となった。		
美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数・客単価共に低下し、完全にお客様の動きが止まってようだ。		
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・電話による問い合わせも、イベント来場者数も激減している。また、購入までに時間をかける顧客が増えている。		
企業動向関連 (四国)	良くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の反動減もなく、販売、受注とも堅調である。
	やや良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税率引上げによる落ち込みは、予想したほどではなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量は3か月前より増加している。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子は順調のようだ。思っていたよりも消費税に関する抵抗が少なかった。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・商品貨物の輸送量が増加している。海外からの原料の輸入数量も増加傾向にある。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・例年、年度初めは受注量が増える。今年は消費税率が引上げられたが、例年同様に推移している。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・得意先のスーパーマーケットでは、消費税増税後の売上維持に苦戦している。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注件数は増えているが、受注残高が減少している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・例年は手持ち業務量が減少する時期だが、今年は確保できている。競争相手や同業他社では、新卒採用増や賃上げなどの意欲も出ており、ここ10年間で最も景況感が良くなっている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・技術職員不足で、思うほど仕事が取れない。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・本州への農産物の輸送は、消費税増税後の4月は取扱物量が減少し、前年を下回った。本州から復便として輸送している商流雑貨はほぼ前年並みであった。消費税増税後は仕入れを控える業者もみられることから、受注減少が出荷物量減少に繋がっている。
		公認会計士	取引先の様子	・各企業の4月の試算表・決算書等をみると、前年並みの企業が全体の約60%、約10%は下落、約15%程度が良くなっている。
	やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は消費税増税前の駆け込み需要があったが、4月以降はその反動減がある。3か月平均すると前年並みに落ち着くものと思われる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電システムの販売は好調に推移していたが、消費税増税分を値上げしたことで、大型、低圧、高圧、特高のうちの低圧と高圧の物件の動きが止まっている。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内は、消費税増税の反動で受注が減少している。海外需要において大きな変動要因はないが、得意先の在庫増に伴い、かすかな減少傾向がみられる。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・印刷サイズダウンあるいは回数減等により得意先の販促広告費が削減されている。
	悪くなっている	—	—	—
	雇用関連 (四国)	良くなっている	—	—
やや良くなっている		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・これまで一時的な人材活用であった派遣サービスについて、紹介予定派遣の依頼が増えており、企業の人員確保の仕方に一定の余裕が生まれている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・消費税増税で求人数の減少が心配されたが、製造業では増加している。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・依然、求人数が高止まりしており、求人案件（求人誌等掲載）が前年より多い。しかし、求職者数が少ないことから、採用に至らない企業がほとんどである。
		職業安定所（職員）	それ以外	・3月の有効求人倍率は1.11倍で、3か月前より0.02ポイント上昇している。
変わらない		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・消費税増税に伴い、消費意欲は停滞している。特に自動車、家電、貴金属関係は大きく影響を受けている。おそらく3か月から半年は回復しないのではないかと。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は好調を維持しているものの、非正規の求人が圧倒的多数を占め、採用者数が増えないミスマッチが続いている。
		民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・サービス業では、かなりの人手不足感から多くの求人を募集する会社もあれば、会社の将来への不安から退職希望者が何人かいる会社もあり、採用に関する状況が大きく変わってきている。
やや悪くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・今月は介護老人施設などのオープンが多数あり、不動産以外では消費税増税による落ち込みは小さかった。求人広告も前月のレベルを維持した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
	○	○	○	
	○	○	○	
	○	○	○	
	○	○	○	
	○	○	○	
	○	○	○	
	変わらない	変わらない	○	○
○			○	○
○			○	○
○			○	○
○			○	○
○			○	○
○			○	○

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・来店客数にあまり変化はない。良くもなく悪くもなく落ち着いている。消費税増税もあまり関係ないようだ。
		衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要も期待外れに終わった。見るだけの客で販売に繋がらない。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・先月の消費税増税前の駆け込み需要が嘘のように、今月は予想以上に売れない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要で、3月末に燃料油を満タンにしている顧客が多数おり、4月は燃料油の販売が例年と比較すると減少している。ただ、顧客の様子をみると、必要な商品は引き続き購入するマインドであり、一時的に減少しているだけと考えている。
		その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	販売量の動き	・当月 (4月) は、消費税増税の反動で売上は苦戦状況にあるが、徐々に回復基調にあり、前年売上は確保できる。
		高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・来客数に伸びがない。
		都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・消費税増税によって単価は上がったが、稼働率は多少下がっている。結果、売上は先月と同じくらいである。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークは、国内・海外とも近場中心の動きとなっている。国内は日帰り・1泊、海外は後半の休みを利用した3泊までが人気となっている。全体では前年をやや割れる状況である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・消費税増税後、1割ほどの売上減を覚悟していたが落ち込みは予想以上に少なく、ほぼ横ばいであった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は1か月間を通して大変稼働が良かった。ただし、夜の繁華街は良くなかった。
		通信会社 (総務局)	販売量の動き	・エリア拡大により新規契約は増加しているが、既存エリアの状況は依然低調である。
		ゴルフ場 (従業員)	単価の動き	・4月の消費税増税に伴い、プレー代に増税分を転嫁した。ゴルフプレー代は競争が非常に激しいが、それほど影響はなく客も理解を示している。また、プレー代以外のショップやレストラン利用も少しずつ単価が上向いている。また、県外客や海外客が順調である。
		音楽教室 (管理担当)	来客数の動き	・転勤などで辞める方も多い一方、入会する方も多かったので若干プラスである。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新年度となり、マンションの販売、来店客の動きはあまりない。また、注文住宅の来店客数の伸びが鈍化してきている。景気が良いと言われるが一部だけで、消費者は先行きが不安な様子であり住宅に対する購入意欲がない。
		やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き
百貨店 (総務担当)	販売量の動き		・消費税増税の全体的な影響は想定範囲内ではあるが、来店客数や客単価は減少しており、大型テナントほど厳しい状況で推移している。	
百貨店 (営業担当)	お客様の様子		・前月の消費税増税前の駆け込み需要が好調だったため、その反動減で今月は客単価が低下し苦戦している。しかし、来店促進のため子供向けイベントや物産展等の催事を行ったことで来店客数は増加し、売上金額累計では前年並みを確保した。デイリー食品である生鮮食品の需要は戻っているが、海苔等の保存食品は回復していない。	
百貨店 (営業政策担当)	来客数の動き		・消費税増税前の駆け込み需要の反動減は想定通りである。現在は全体的にマイナス気味だが、これは一時的なもので、今後確実に上向いていく。当社では4月に入り、全ての催事が好調である。付加価値型の「ぜいたく消費」は控えめながら、今必要なものについては堅実に買上されている。	
百貨店 (企画)	販売量の動き		・消費税増税に伴う3月の駆け込み需要の反動が大きかった。	
スーパー (店長)	販売量の動き		・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が見られるが、今後の見通しは暗くない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で購入の多かった、日持ちする商品や耐久商品は、今月の1～2週目に前年比82%まで落ちているが、3週目から少しずつ回復している。一般食品やトイレトペーパー等住居関連商品の売上が厳しい状況で、まだまだ買いため商品の売行きが鈍い。生鮮食料品は、2週目あたりで平常の売上に戻った。5月からは少し見通しが良くなる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要は一部商品に限られていたため、反動減の影響はそれほど大きく出ていない。特に生鮮食品に関しては1週間程で元の状況に戻り、今月は例年並みの実績を達成する予定だ。しかし、酒や米等の一般食品においては、売上が厳しい状況が続いている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響で、客数は前年同月比で7%程度減少だったが、販売量が前年同月比10%超で減少している。特に、身の回り品の販売量が減少しており、前月まで続いた買いための影響が顕著に表れている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・予想はしていたが、消費税増税後の売上はかなり落ち込んでいる。雑貨、衣料、加工食品、米、タバコなどは顕著であるが、月末に向かって回復傾向にある。青果、水産、精肉、惣菜などの生鮮品は落ちも少なく、回復も早かった。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で若干売上高が減少傾向にある。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・ここ3か月良過ぎたために、その反動で3か月前よりもやや悪いものの、売上は前年比3%増であった。出だしは悪かったが後半は回復しており、販売量も伸びてきている。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要がなかった分、増税後の急な買い控えはなかった。顧客の来店はいつも通りだったが、フリー客の来店が減った。そのため、イレギュラーなセールで前年並みの売上に追い付いたような状況である。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・消費税増税後の4月は、非常に慎重な購買の様子が見受けられた。吟味して買う様子を見ると、消費税増税の意識が浸透している。消費税増税前の駆け込み需要で、必要な物は3月までに買っているの、4月は財布のひもが堅い1か月であった。
		衣料品専門店（チーフ）	来客数の動き	・消費税増税前に比べ、来店客数の減少と購買意欲が高くない客が増えており、売上につながっていない。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減がある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月は受注台数が極端に落ち込んだ。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月は消費税増税の影響で新車の受注台数が激減した。さらに3年前の東日本大震災時の販売減少の影響で、初回車検対象台数が少なく、整備売上も苦戦している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月までは送別会など大人数の宴会が入って良かったが、4月になった途端、大人数の宴会がなくなった。会席などは多少あるが厳しい月であった。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・消費税増税の影響で客足がすごく落ち込んでいる。旅行者はそうでもないが、地元の方は財布のひもが縮まっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月に入ってからスーパーなど客がかなり減っている。販売店におけるイベント効果により、中旬以降いくらか持ち直したが、全体的に落ち込んでいる。それに伴いタクシーの客も減っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月になった途端、昼のタクシー利用が極端に少なくなった。夜はあまり変わらない。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減と増税による購買意欲の低下により、今月は週末以外、来店客・販売数ともにあまり増えず、厳しい状況が続いている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると悪くなっている。消費税増税により客の買い控えが出てくるので、お洒落産業にも大きな影響が出ている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響が多少ある。景気が良くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・消費税増税や診療報酬・介護報酬改定に伴う負担増により、利用者が伸び悩んでいる傾向がみられる。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、なかなか売上が上がらない。
		設計事務所（代表）	お客様の様子	・問い合わせが減っている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税により来客数が激減した。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要が大きかった反面、4月は反動減が大きくなっている。来店客数、販売量、単価もかなり低い。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・本当に来店客が少ない。利幅が少ないうえに売行きが悪いので利益が出ない。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・今月の売上見通しは、前年比87～103%で全体的に悪い。ただし、売上は、4月18日以降徐々に上がっており、入店客数も若干増えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減で、保存のきく生活必需品や家電、化粧品などの落ち込みが特に大きい。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要による売上増に対し、4月は反動減となった。反動減の影響は4月中旬までと見ていたが、4月いっぱい影響が大きく非常に厳しい状況である。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・当社一番の主力部門であるミセス層のボリュームゾーンでは来客数が減り、価格に対する反応も非常にシビアになっている。近年まれにみる不況感を感じる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税後家電の購入がめっきり減った。大型商品について特に顕著である。消耗品はある程度出すが、壊れたから買換えるというような客にしか販売できていない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が予想以上に大きい。大型商品の成約率が大きく低下している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響が強くなった。土産品という製品の性格上、増税の影響は少ないとみていたが、客の購入単価が下がり売上は前年比20%減となった。
		居酒屋（経営者）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動か、客足が鈍い。
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・4月の宴会・婚礼・宿泊利用者は、いずれもかなりのマイナスとなった。街中の外食店も昨年と比べてかなり悪いとの話がある。		
企業動向関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・中国での生産が難しくなっている。取引先は東南アジアに生産をシフトしているが、スムーズにいかない。そのため、我々国内工場を多少でも大事にしようという動きがあるようだ。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は消費税増税前の駆け込み需要があったため、今月はその反動減を予測していた。しかし、前年と同程度の受注があり、それほどの落ち込みはなかった。3月の駆け込み需要の影響を除いても、1月以降、受注額、受注件数は確実に前年比10%程度伸びている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税が増税されたが、消費者の動きは今までよりいくらか良くなっている状態である。輸出、国内向けの企画も何件もあり、動きが活発になっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・要因はよく分からないが、受注量がだんだんと増えてきている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・従来競合関係であった先や、直接取引のなかった先から人員派遣要請や一部業務で請負の話が出てきている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・取引先からの情報では、消費税増税の影響は軽微であり、むしろ多業種に渡って、当面の受注を確保している企業が多い。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・店舗の改善が進み、特に女性客が増加している。酒の販売量が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・2014年3月期の決算が大幅な黒字となる会社が見受けられる。定期昇給以外のベースアップを行った取引先もあった。中途採用を行っている会社もあり、企業業績の回復が感じられる。米国の大手金融機関の破たん時に就職活動した学生が転職を意識しているとの話があった。社内外の飲み会が増え、タクシーに乗る機会が増えた。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・今年度4月から高齢者や障害者、子育てに関するアンケート調査や計画策定をコンサルタントに委託する市町村が多い。発注数が多いため、指名を受けた業者のなかには辞退したり、予算上限に近い金額で入札に応じているところもある。極端に価格を下げた入札が減っている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月の売上は消費税増税の影響でかなりの落ち込みを予想していたが、落ち込みは予想より少なくほっとしている。ただ、鳥インフルエンザの発生により、スーパー向け商品の一部に少し影響が出ている。豚肉は加工メーカー筋の引き合いが相変わらず強く、対応できていない状況である。
		農林水産業（営業）	取引先の様子	・消費税増税の影響で販売が鈍ったが、徐々に回復傾向にある。
		農林水産業（従業者）	取引先の様子	・畜産物販売額は消費税増税で若干上がっている。今のところやや弱い状況である。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税はあまり景気に影響していないようだ。悪いとも良いとも言えない。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響は業界ではなかった。3月の売上増もなく、4月に受注や売上が多いわけでもなく、例年並である。
		その他製造業（産業廃物処理業）	取引先の様子	・消費税増税の影響で停滞感が出ている様子である。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きはあまり良くない状態で変化はない。配送センターの集約はまだ続いている。
		通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響は買い控えの動きがみられるほどでもない。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地区の主要産業である建設業は、行政の出納整理期間ということもあり、昨年度受注した工事代金が支払われ、資金繰りが楽になっている。その他の業種については、消費税増税の影響は現段階で特にみられないことから、各社の業況は比較的安定している。
		新聞社（広告担当者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークのイベント告知などでレジャー施設の広告出稿が前年を超える出稿量である。しかし、消費税増税直後というタイミングもあり、各業界ともに様子見の状態である。全体では前年比90%台前半で収束する見込みである。
		経営コンサルタント	それ以外	・4月末、企業を対象にセミナーを予定している。この数か月準備していたが、企業の反応はあまり芳しくない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・消費税増税の影響を取引先に聞いても、大きな変化がないという回答が多い。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・設備関連事業においては、この時期受注量が減少するのは例年の現象で、今年も減少した。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量の変化が大きくなっている。人材補給をすると仕事量が減り、また人員調整が必要になるなど、非常に難しい。受注量が安定すると、経営も楽になる。安定が一番大事である。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車販売等で、消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられるほか、円安等による原燃料費の値上がりで収益が悪化している取引先が少なくない。また、建設業では一部で人手や必要機材の不足による工事の遅れが出てきている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・全業種で消費税増税前に比べ、月次の売上高は減少している。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がある。
	悪くなっている	建設業（社員）	競争相手の様子	・手持ちの仕事がほとんど皆無で、作業員に長期休暇を与えるか、今のうちに技術者への研修や講習を受講させている業者が多い。公共工事の早期発注を希望する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（総務）	受注量や販売量	・消費税増税の影響で荷物の動きが減少している。
雇用 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・景気とはマインドである。企業の求人に関わる部門は、景気が上昇した後での人材確保では遅いことを知っている。先取りの雇用及び新卒求人が今から伸び続ける1年となる。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・新年度もスタートしたが、派遣登録にくる求職者の数が先月を上回っている。また、当社で仕事の案内をするも、直接雇用の面接を受けている方が多く、そちらを優先したいという声を多く聞く。直接求人も増えているようだ。
		人材派遣会社 (営業)	採用者数の動き	・雇用情勢は相変わらず上昇傾向にあり、雇用形態は派遣から契約以上の直接雇用案件が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は昨年12月と比較し3月は増加しており、有効求人倍率は10月より0.9倍台を維持している。これらの結果からみると景気は良い状態で推移している。
		学校〔大学〕 (就職支援業務)	求人数の動き	・昨年の同時点と比較した2015年卒業予定学生の求人数は、若干の増加を示している。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同期比で増加しており、消費税増税の影響は今のところみられない。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・登録者数が10%以上増加している。派遣依頼も微増しているが、働き手が不足している状況で成約までいかない。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数は減少していないが、需要増大とも言えない状況である。
		学校〔専門学校〕 (就職担当)	求人数の動き	・情報産業からの求人が前年比約5%増、建設業からの求人が同約10%増である。一方、その他分野の求人数は目立った増減がない。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ここ半年程度、前年以上の求人依頼数であったが、4月は求人依頼数が前年割れとなっている。
		人材派遣会社 (社員)	それ以外	・ブライダル司会者の派遣を行っているが、3月は前年度比120%だったのに対し4月は前年度比65%と落ち込んだ。しかし、通信販売の番組出演依頼は増えており、総体として、昨年の10%減にとどまっている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べで、求人の取扱件数は前年並みが続いていたが、最近、前年割れの傾向になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・消費税増税の影響で消費の動きが非常に悪いことが、様々な分野でマイナスに作用している。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		それ以外	・消費税増税とともに、諸経費を転嫁した実質の値上げが多く見受けられる。予想以上に値上げを実感しており、今後、消費は減速する。	
新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・消費税増税に伴う反動減からか、昨年好調だった製造業や建設業の求人広告が落ち込んだ。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・上昇傾向にあった新規求人倍率が減少に転じた。	
悪く なっている	—	—	—	

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
		一般小売店〔菓子〕	販売量の動き	・消費税増税については懸念していたほど影響は大きくなく、また商品の販売量及び客単価について改善していると感じる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・前年を上回るようなことは無いが、前月、前々月と比べると、前年比とのかい離幅が徐々に縮まってきている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・値下げを行ったが、それに見合うよう来客数が増加しており、なかなか良いのではないかとみている。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	来客数の動き	・観光客のレンタカー利用が好調に推移している。今年に入ってから台湾、韓国、香港等からの外国人観光客のレンタカー利用が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (代表取締役)	お客様の様子	・個人住宅や投資案件などの建築相談が増えている。前年9月の消費税増税前の駆け込み受注以降、反動減で建築相談が落ち着いていたが、上向きになってきている。
		住宅販売会社 (営業担当)	来客数の動き	・3月～4月の来場数が前年比178%で伸びている。住宅に関する関心が高いように見受けられる。
	変わらない	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・前年度と変わらない。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・消費税増税後の買い控えのため、消費者は慎重に商品を選んでいる。
		その他専門店 [楽器](経営者)	販売量の動き	・来店客数や問い合わせは増えているが高価な商品は全く出ない状況である。安価な商品や、特価商品のみが売れている。国際通りで飲食の店は好調と聞いているが、価格競争とリピーター及び外国人観光客の増加により、お土産物販の店舗は当面厳しい状況である。
		観光型ホテル (マーケティング担当)	販売量の動き	・稼働率において3か月前と同様に前年同月実績を下回る見込みである。ゴールデンウィークの動きも、日並びの関係もあり、例年より稼働率が低い状況である。
	やや悪く なっている	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・消費税増税の反動減で、4月の既存店計売上は前年を4%ポイント程下回る見込みである。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・消費税増税による買い控えが今前半で止まり、後半は回復したが、累計では悪い。
		コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・これまで客単価は前年を割ることは無かったが、消費税増税後はその反動により客単価が1%ポイント落ちている。特に、たばこ、雑貨、雑誌、菓子に影響が出ている。なかでもたばこの落ち込みは顕著であり、月末になっても回復しない。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	来客数の動き	・消費税増税後かなりの落ち込みを覚悟していたが、例年並みの推移をしている。ただし、徐々に週末の来客数が落ちてきている。
旅行代理店(マネージャー)		販売量の動き	・消費税増税前に購入した客が多いので、4月は若干停滞気味である。	
通信会社(店長)		来客数の動き	・3月までのキャンペーンが終了したこともあり、4月に入り来客数が極端に減った。毎月の料金を下げるため、プラン内容を見直す客の来店は増えている。消費税増税もあり、支出を減らそうとしている傾向がうかがえる。	
悪く なっている		商店街(代表者)	単価の動き	・来客数は多少伸びているが、ここ数年の不況で客単価が低下し売上が伸びないのが、小売店の現状とみられる。様々な国の政策もまだまだ隔々まで波及しておらず、買い控えではなく節約志向の影響があると推測する。
	百貨店(営業企画)	販売量の動き	・消費税増税の影響で、特に買いだめの反動を受けた化粧品が苦戦している。店舗合計の前年同月比では▲6%と予測の範囲内である。店舗改装による集客やイベント誘致で落ち幅を縮小できている。	
	スーパー(販売企画担当)	販売量の動き	・前月の消費税増税前の駆け込み需要の反動により、販売量、客単価、来客数共に大変厳しい状況である。	
	家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減がある。ただし当初の想定よりは落ち込みが小さい。	
企業 動向 関連 (沖縄)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	窯業・土石製品 製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前期着工予定の公共工事が、今月から着工となりやや良い状況である。公共工事は前年比で減少、民間工事は前年比で増加している。
	変わらない	通信業(営業担当)	取引先の様子	・仕事の確保は容易であるが、安価な案件である。この状況は以前より変わっていない。
	やや悪く なっている	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新築の契約棟数及び契約金額が減少している。
	悪く なっている	食料品製造業 (総務)	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、今前半は動きが非常に鈍かった。
雇用 関連 (沖縄)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	人材派遣会社 (総務担当)	求人数の動き	・企業の求人は、堅調である。県内企業においてもパート、派遣社員から直接雇用への動きが少しみえてきている。
		学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・求人数が多く、企業は人材確保に苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・クライアントの業績は悪くなく、仕事量も増えているように見受けられるが、雇用に対して少し様子見、あるいは慎重になっているように感じる。
	やや悪くなっている	—	—	—
	悪くなっている	—	—	—